１　調査の概要

（１） 調査の目的

姫路市では、平成１９年３月に市民活動及び協働の推進について基本的な考え方を整理し、その方針を示した「姫路市市民活動・協働推進指針」を策定し、以降、この指針に基づいて「市民活動・協働推進事業計画」を第四次計画まで策定し、参画と協働のまちづくりを推進してまいりました。
今回実施する調査は、「姫路市まちづくりと自治の条例」を基本とし、全員参加のまちづくりを進める中で、前回調査（令和２年）実施時からの市民活動に関する意識や意向、ニーズの変化を的確に把握し、今後の施策展開の参考とするためのものです。

（２） 調査対象者

- 姫路に住民登録がある満 18 歳以上の市民から、男女別、各年齢階層別、各地区別で無作為抽出した、回答数 3,000 人
- 令和７年度市政モニター登録者　211 人

（３） 調査方法

調査票の配布は郵送にて行い、回収は郵送またはインターネットでの回答を依頼しました。
市政モニター登録者への配布は、メールにて行い、インターネットでの回答を依頼しました。

（４） 調査期間

令和７年９月 24 日（水）～令和７年 10 月 10 日（金）

（５） 回答の状況

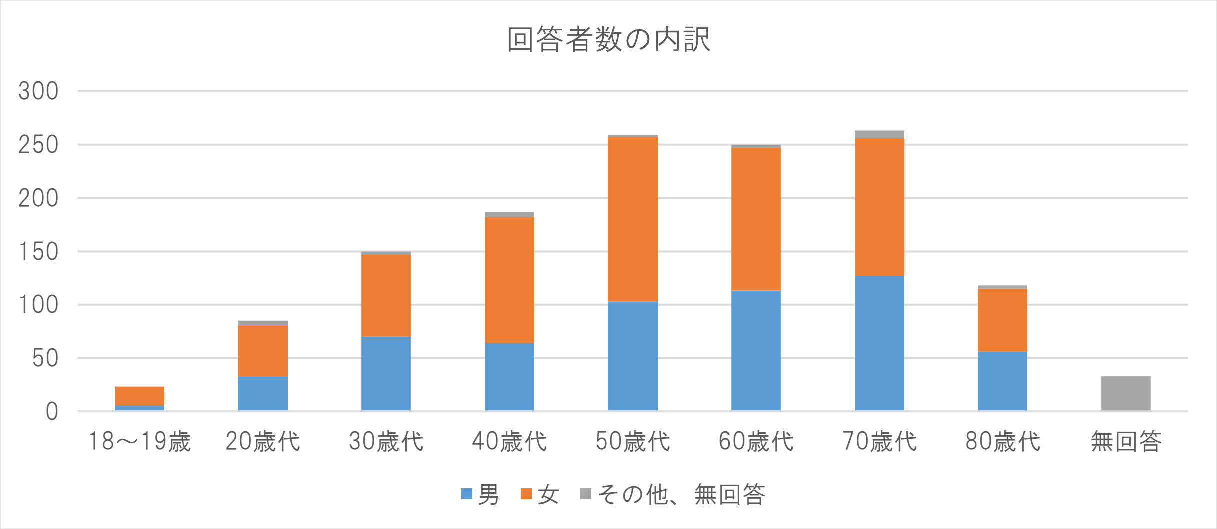
対象	配布数	有効配布数	回答数	回答率
無作為抽出	3,000	2,991	1,192	39.9%
市政モニター	211	211	175	82.9%
合計	3,211	3,202	1,367	42.7%

（6） 回答者の内訳について

ア　回答者の性別×年齢

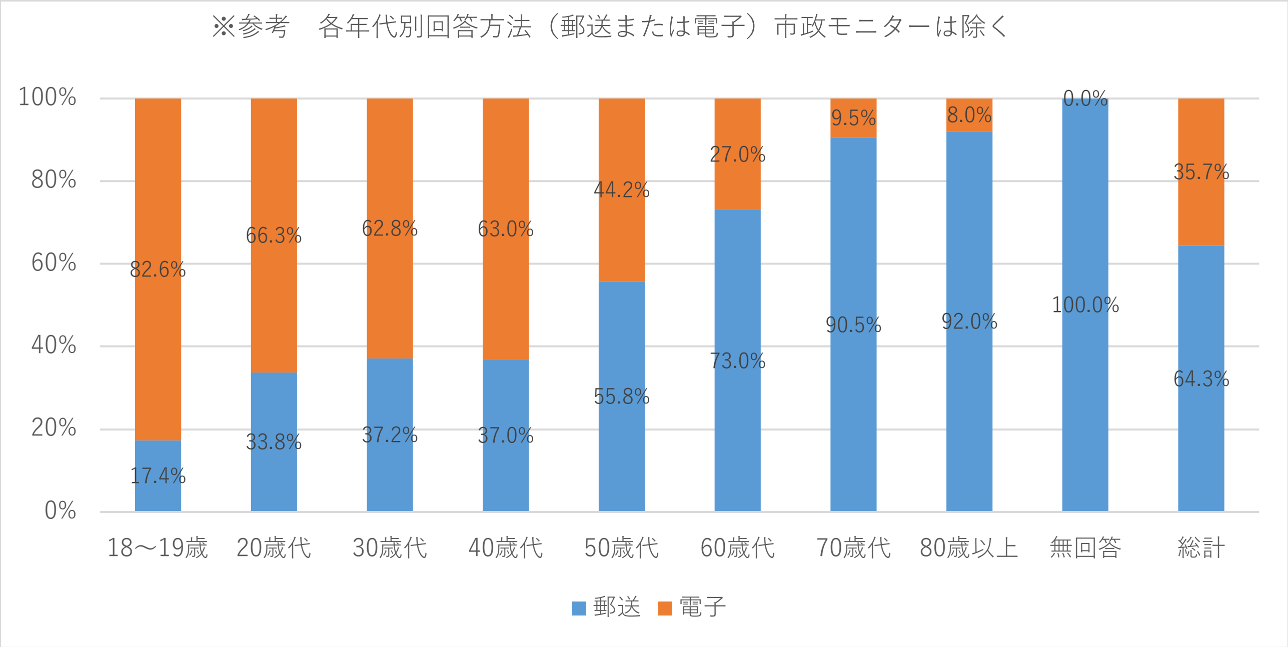
		18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	総計
男性		6	33	70	64	103	113	127	56	0	572
		26.1%	38.8%	46.7%	34.2%	39.8%	45.4%	48.3%	47.5%	0.0%	41.8%
女性		17	47	77	118	154	134	129	59	0	735
		73.9%	55.3%	51.3%	63.1%	59.5%	53.8%	49.0%	50.0%	0.0%	53.8%
その他 無回答		0	5	3	5	2	2	7	3	33	60
		0.0%	5.9%	2.0%	2.7%	0.8%	0.8%	2.7%	2.5%	100.0%	4.4%
合計		23	85	150	187	259	249	263	118	33	1367
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	総計
各年代の割合	1.7%	6.2%	11.0%	13.7%	18.9%	18.2%	19.2%	8.6%	2.4%	100.0%



イ　地域別の回答者数

	配布数	有効 送付数	回答数	送付数に対する回答割合 （市政モニター除く）	市政モニター 地区別回答数
中部地区	788	786	303	38.5%	59
西部地区	222	222	85	38.3%	11
北部地区	308	308	118	38.3%	14
東部地区	238	237	88	37.1%	15
灘地区	237	235	88	37.4%	12
飾磨地区	366	363	136	37.5%	22
広畑地区	304	303	112	36.8%	13
網干地区	290	290	111	38.3%	19
家島地区	26	26	4	15.4%	0
夢前地区	94	94	39	41.5%	3
香寺地区	104	104	44	42.3%	6
安富地区	23	23	13	56.5%	1
地区不明	—	0	11		
無回答	—	0	40		
総計	3,000	2,991	1,192	39.9%	175



２　集計・分析

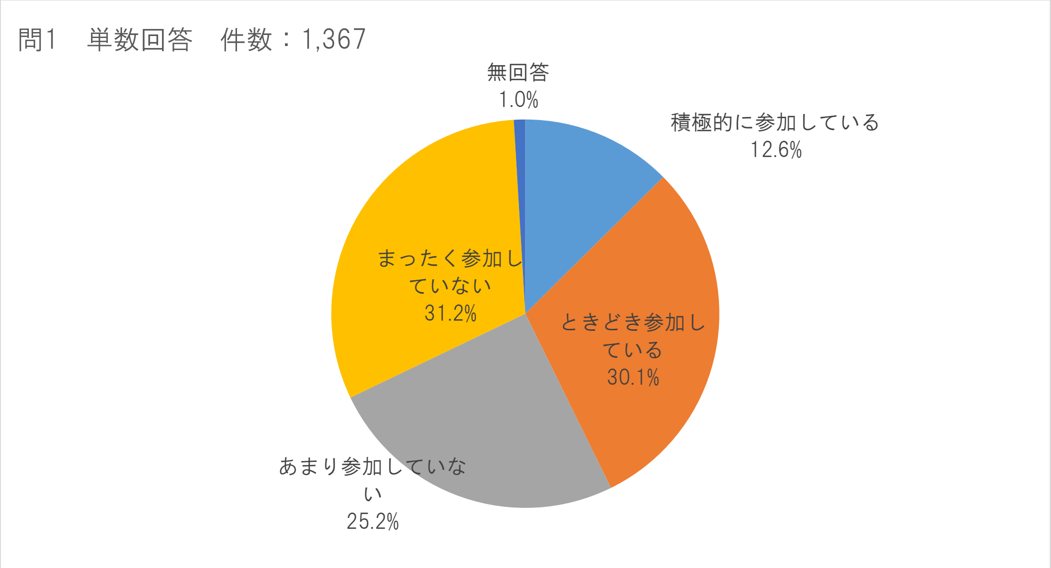
・ 集計、分析にあたっては、小数点第２位以下を四捨五入して算出しました。したがって、比率の合計回答率が 100％にならず、１％の範囲内で増減することがあります。
・ 複数回答の項目については、回答数の比率及び回答人数の比率を掲載しています。回答人数の比率については、合計が 100％になりません。
・ 性別、年齢別、居住地域など基本属性について、単数回答の質問については、クロス集計を行い、分析しました。
・ アンケートの最後「姫路市において、市民活動を盛んにしていくうえで、ご意見・ご提言がありましたら、お聞かせください」の欄に記入があった意見については、生成 AI を活用し、要約しています。
・ 一部の設問について、前回（令和２年度）と比較し考察を行っています。

3　調査結果のまとめ

Ⅰ　自治会などの地域団体への関わりについて

問１　地域団体の活動にどの程度参加されていますか。【○はひとつ】

集計結果	R7 回答数	R2 割合	R7 割合
1　積極的に参加している	172	15.2 ％	12.6％
2　ときどき参加している	412	28.3 ％	30.1％
3　あまり参加していない	344	22.4 ％	25.2％
4　まったく参加していない	426	30.4 ％	31.2％
無回答	13	3.7％	0.95％
合計	1,367	100.0％	100.0％



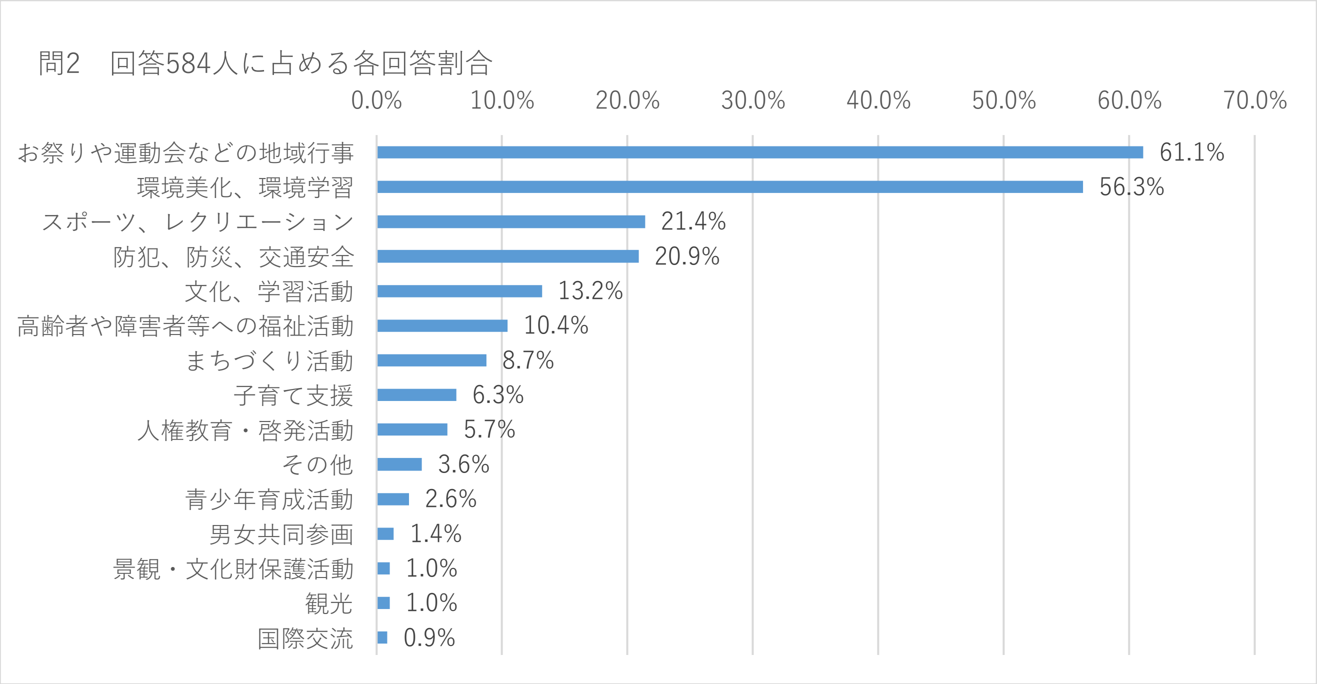
地域団体の活動への参加状況を令和２年度と比較すると､｢積極的に参加している｣は 15.2％から 12.6％に減少し、「ときどき参加している」は 28.3％から 30.1％に増加した。また、「あまり参加していない」「まったく参加していない」を合わせた非参加層は 52.8％から 56.4％に増加しており、地域団体活動への参加は全体としてやや低下傾向にある。

問２　問１で１又は２に〇をつけた方のみお答えください。
地域団体を通じて、どのような分野の活動に参加されていますか。【〇はいくつでも可】

（1）回答数の割合

集計結果	R7 回答数	R2 割合	R7 割合
1　環境美化、環境学習	329	22.6 ％	26.3%
2　文化、学習活動	77	8.0 ％	6.1%
3　お祭りや運動会などの地域行事	357	28.4 ％	28.5%
4　スポーツ、レクリエーション	125	10.0 ％	10.0%
5　防犯、防災、交通安全	122	10.0 ％	9.7%
6　青少年育成活動	15	1.6 ％	1.2%
7　高齢者や障害者等への福祉活動	61	6.0 ％	4.9%
8　まちづくり活動	51	4.1 ％	4.1%
9　子育て支援	37	2.4 ％	3.0%
１０　人権教育・啓発活動	33	3.5 ％	2.6%
１１　男女共同参画	8	0.3 ％	0.6%
１２　景観・文化財保護活動	6	0.9 ％	0.5%
１３　国際交流	5	0.5 ％	0.4%
１４　観光	6	0.7 ％	0.5%
１５　その他	21	1.1 ％	1.7%
合計	1,253	100.1%	100.0%

（2）回答人数の割合



【その他自由記述】

・PTA のベルマーク集め

・子ども会、中学会等

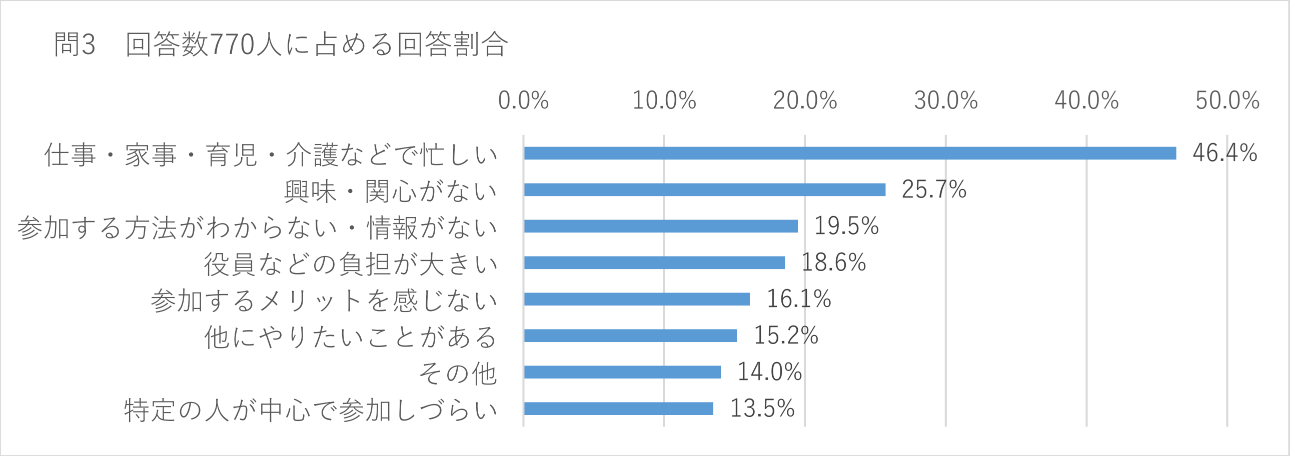
地域団体を通じて参加している活動分野を回答人数 584 人に占める割合でみると、「お祭りや運動会などの地域行事」が 61.1%で最も多く、次いで「環境美化、環境学習」が 56.3%と高かった。以下、「スポーツ、レクリエーション」21.4%、「防犯、防災、交通安全」20.9%が続いており、地域団体の活動は地域行事と環境分野を中心に構成されていることがうかがえる。

問３　問１で３又は４に〇をつけた方のみお答えください。
地域団体の活動に参加されていないのはなぜですか。【〇はいくつでも可】

（1）回答数の割合

集計結果	R7回答数	R2割合	R7割合
1　仕事・家事・育児・介護などで忙しい	357	27.5%	27.4%
2　興味・関心がない	198	17.1%	15.2%
3　特定の人が中心で参加しづらい	104	7.1%	8.0%
4　役員などの負担が大きい	143	8.5%	11.0%
5　他にやりたいことがある	117	6.9%	9.0%
6　参加するメリットを感じない	124	6.2%	9.5%
7　参加する方法がわからない・情報がない	150	9.8%	11.5%
8　その他	108	9.8%	8.3%
（R2のみ）参加したい活動がない	−	7.1%	−
合計	1,301	100.0%	100.0%

（2）回答人数の割合

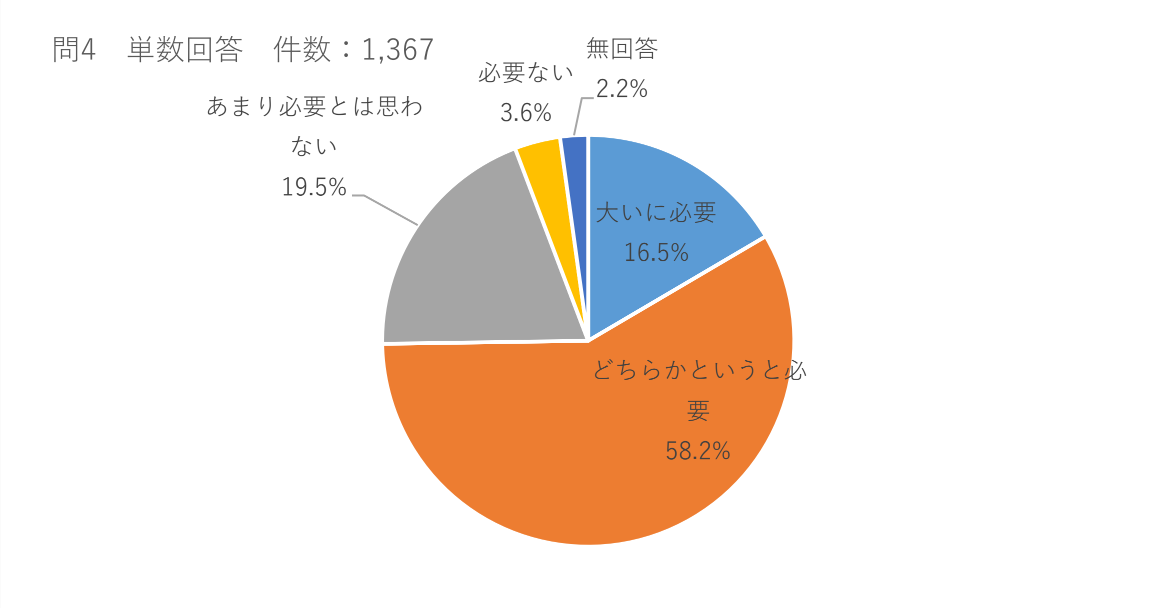


【その他自由記述】
・健康上の問題（病気、体調不良、高齢のため）
・何年も自治会活動を行ってきたため　等

回答人数に占める割合では、「仕事・家事・育児・介護などで忙しい」が 46.4%で最も多く、時間的制約が参加を妨げる主な要因となっている。次いで「興味・関心がない」「参加する方法がわからない・情報がない」「役員などの負担が大きい」が続いており、関心の低さに加え、情報不足や負担感が要因として挙げられている。

問４　地域団体の活動について、どのような感想をお持ちですか。【〇はひとつ】

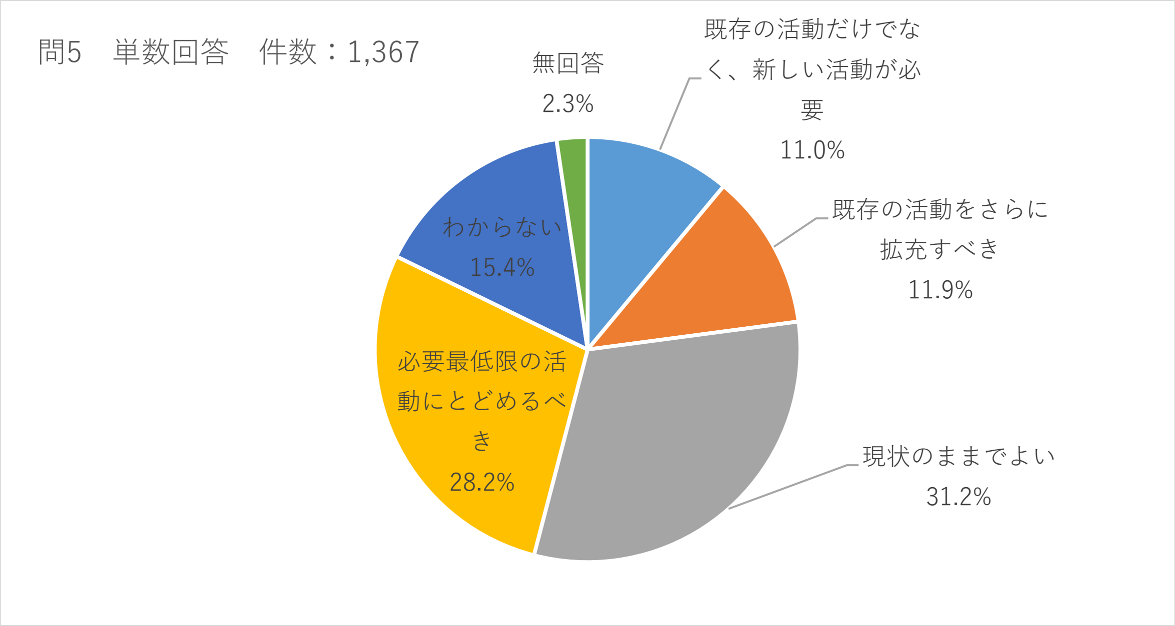
集計結果	R7回答数	R2割合	R7割合
1　大いに必要	226	15.0%	16.5%
2　どちらかというと必要	796	17.9%	58.2%
3　あまり必要とは思わない	266	7.4%	19.5%
4　必要ない	49	−	3.6%
（R2のみ）ある程度は必要	−	55.4%	−
無回答	30	4.3%	2.2%
合計	1,367	100.0%	100.0%



令和２年度と令和７年度を比較すると、地域団体の活動を「必要」と捉える回答は増加しており、住民の活動意義に対する認識は高まっていると評価できる。特に令和７年度は「どちらかというと必要」が58.2%と最も多く、前向きな受け止めが広がっている。一方で、「あまり必要とは思わない」「必要ない」も一定数みられ、活動の必要性の認識や情報発信などが課題となっている。

問５　地域団体の活動は今後どうあるべきだとお考えですか。【〇はひとつ】

集計結果	R7 回答数	R2 割合	R7 割合
1　既存の活動だけでなく、新しい活動が必要	151	10.6%	11.0%
2　既存の活動をさらに拡充すべき	162	11.4%	11.9%
3　現状のままでよい	426	28.0%	31.2%
4　必要最低限の活動にとどめるべき	385	26.8%	28.2%
5　わからない	211	16.1%	15.4%
無回答	32	4.9%	2.3%
（R2 のみ）その他	—	2.2%	−
合計	1,367	100.0%	100.0%



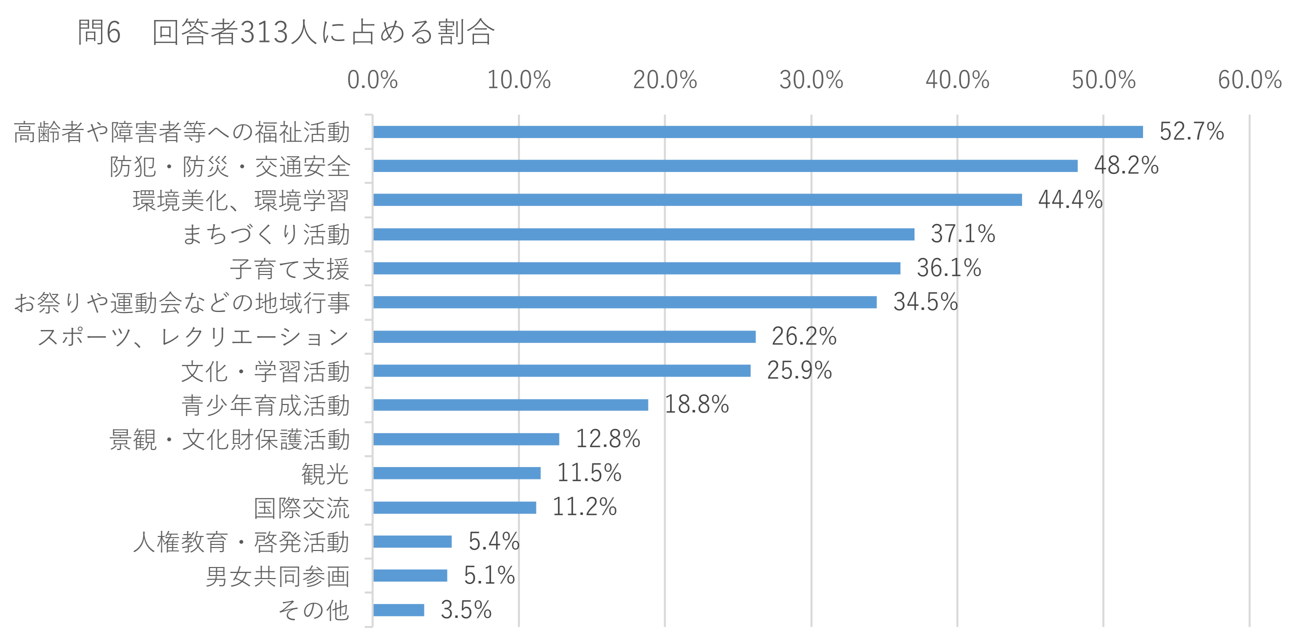
令和 2 年度と令和 7 年度を比較すると、「現状のままでよい」「必要最低限の活動にとどめるべき」がいずれも 3 割前後を占めており、活動拡大よりも現状維持を望む傾向がうかがえる。一方で、「新しい活動が必要」「既存の活動をさらに拡充すべき」も一定数あり、地域活動への期待は残されている。

問６　問５で１又は２に〇をつけた方のみお答えください。
地域団体は、どのような分野において新たな活動や拡充をしていくべきだとお考えですか。
【〇はいくつでも可】

（1）回答数の割合

集計結果	R7 回答数	R7 割合
1　環境美化、環境学習	139	11.9%
2　文化・学習活動	81	6.9%
3　お祭りや運動会などの地域行事	108	9.2%
4　スポーツ、レクリエーション	82	7.0%
5　防犯・防災・交通安全	151	12.9%
6　青少年育成活動	59	5.0%
7　高齢者や障害者等への福祉活動	165	14.1%
8　まちづくり活動	116	9.9%
9　子育て支援	113	9.7%
１０　人権教育・啓発活動	17	1.5%
１１　男女共同参画	16	1.4%
１２　景観・文化財保護活動	40	3.4%
１３　国際交流	35	3.0%
１４　観光	36	3.1%
１５　その他	11	0.9%
合計	1,169	100.0%

（２）回答人数の割合



【その他自由記述】

・独居老人に対して社会参加が出来る場所の提供
・交流の場があればいいなと思う
・具体的な活動を増やすと家庭に負担がかかる

回答人数に占める割合では、「高齢者や障害者等への福祉活動」が 52.7％で最も多く、次いで「防犯・防災・交通安全」48.2％、「環境美化、環境学習」44.4％と続いた。生活の安心・安全に直結する分野への関心が高く、「まちづくり活動」や「子育て支援」も多いことから、地域課題に応じた実践的な活動の充実が求められている。

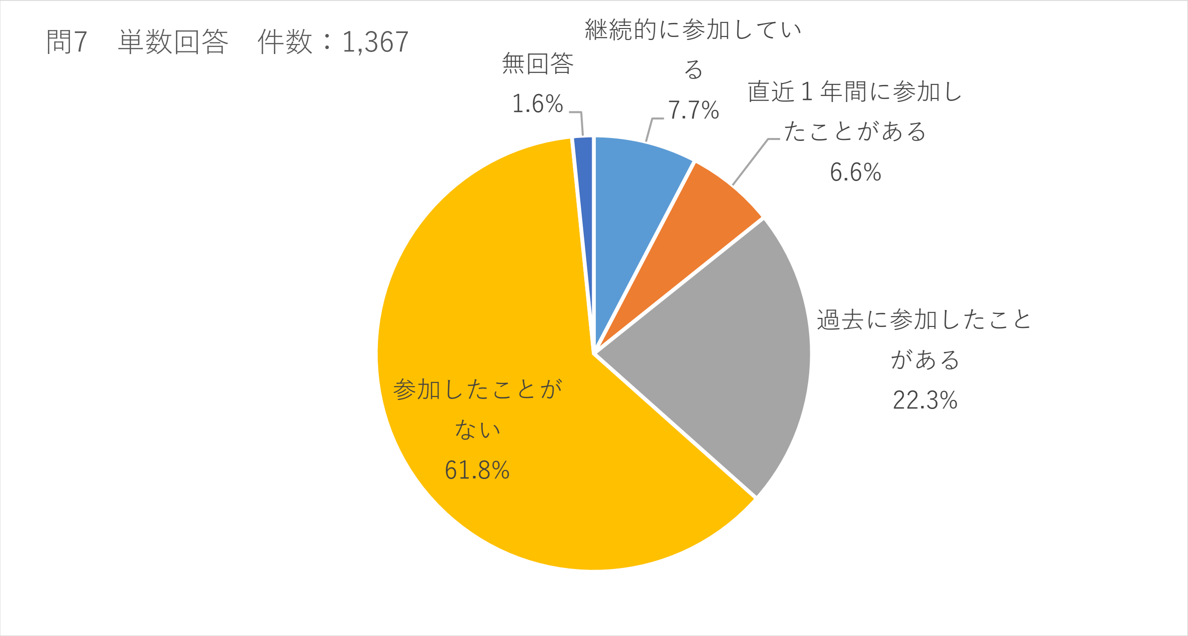
Ⅱ　ボランティア活動や NPO への関わりについて

問 7　ボランティア活動や NPO 活動に参加されたことがありますか。【〇はひとつ】

集計結果	R7 回答数	R7 割合
1　継続的に参加している	105	7.7%
2　直近 1 年間に参加したことがある	90	6.6%
3　過去に参加したことがある	305	22.3%
4　参加したことがない	845	61.8%
無回答	22	1.6%
合計	1,367	100.0%

※参考（R2 調査）

集計結果	R2 回答数	R2 割合
1　参加している	92	8.0%
2　参加したことがある	176	15.3%
3　参加したことがない	809	70.1%
無回答	77	6.7%
合計	1,154	100.1%



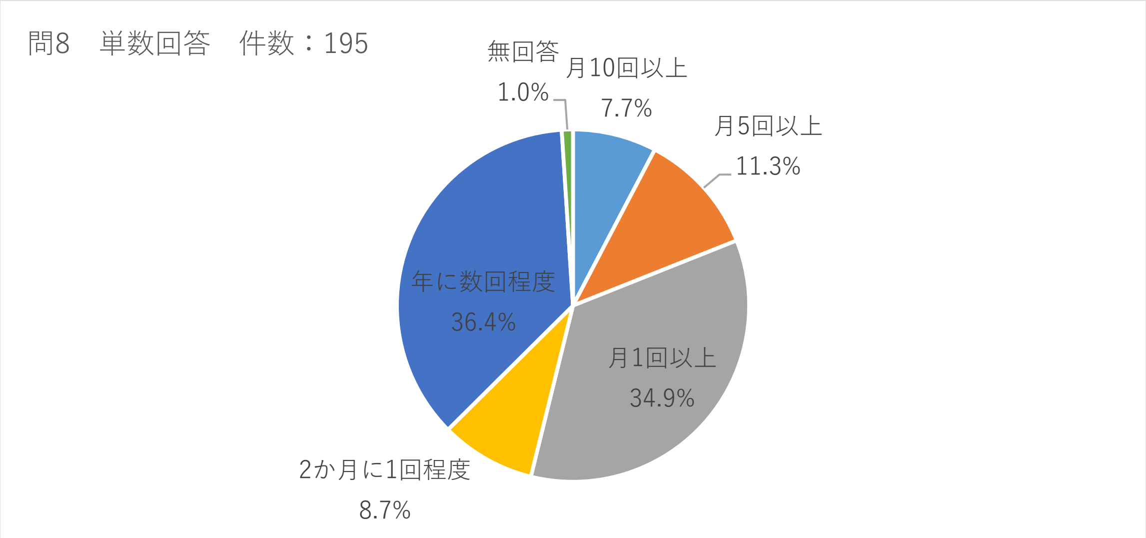
NPO・ボランティア活動への参加経験者は、令和 2 年度の 23.3%から令和 7 年度は 36.6%へ 13.3 ポイント増加した。一方、「参加したことがない」は 70.1%から 61.8%へ減少し、参加の広がりが見られる。

問８　問７で１又は２に○をつけた方のみお答えください。
直近１年間でボランティア活動や NPO 活動に参加された日数をお答えください。【○はひとつ】

集計結果	R7 回答数	R7 割合
1　月 10 回以上	15	7.7%
2　月 5 回以上	22	11.3%
3　月 1 回以上	68	34.9%
4　2 か月に 1 回程度	17	8.7%
5　年に数回程度	71	36.4%
無回答	2	1.0%
合計	195	100.0%

※参考(R2 調査)
ボランティア活動や NPO 活動に「参加している」または「参加したことがある」と回答した方に対して、ここ一年間に参加された日数について聞いたもの

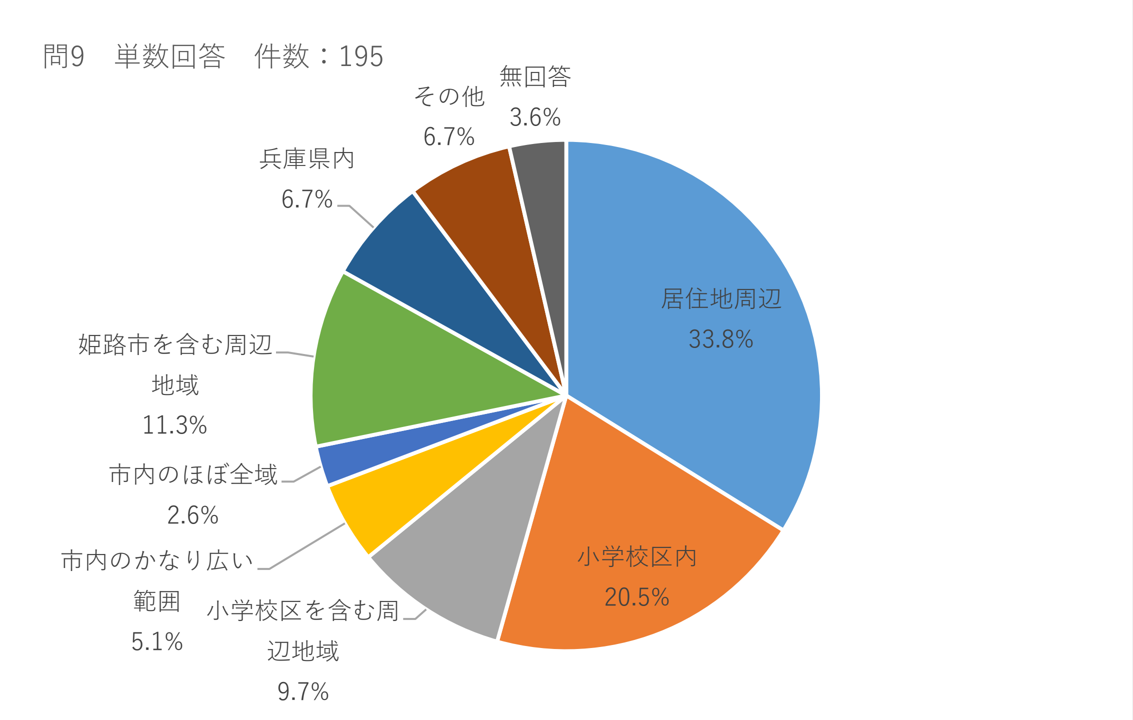
集計結果	R2 回答数	R2 割合
1　120 日以上	11	3.9%
2　60 日～119 日	13	4.6%
3　12 日～59 日	54	19.2%
4　6 日～11 日	34	12.1%
5　3～5 日	48	17.1%
6　1～2 日	57	20.3%
7　参加なし	50	17.8%
8　無回答	14	5.0%
合計	281	100.0



令和 2 年度は、直近 1 年間の参加日数を尋ねており、12 日以上参加した人は 27.7%、6 日以上は 39.8%、1 日以上は 77.2%であった一方、令和 7 年度は参加頻度を尋ねており、月 1 回以上参加した人は 53.8～53.9%、2 か月に 1 回程度以上は 62.5～62.6%、年に数回以上参加した人は 99.0%であった。質問形式と選択肢が異なるため厳密な比較はできないが、概ね令和 7 年度の方が、直近 1 年間に参加している人、特に比較的高い頻度で参加している人の割合が高い結果となっている。

問９　問７で１又は２に○をつけた方のみお答えください。
ボランティア活動や NPO 活動を主にどの範囲で行われていますか。【○はひとつ】

集計結果	R7回答数	R7割合
1　居住地周辺	66	33.8%
2　小学校区内	40	20.5%
3　小学校区を含む周辺地域	19	9.7%
4　市内のかなり広い範囲	10	5.1%
5　市内のほぼ全域	5	2.6%
6　姫路市を含む周辺地域	22	11.3%
7　兵庫県内	13	6.7%
8　その他	13	6.7%
無回答	7	3.6%
合計	195	100.0%



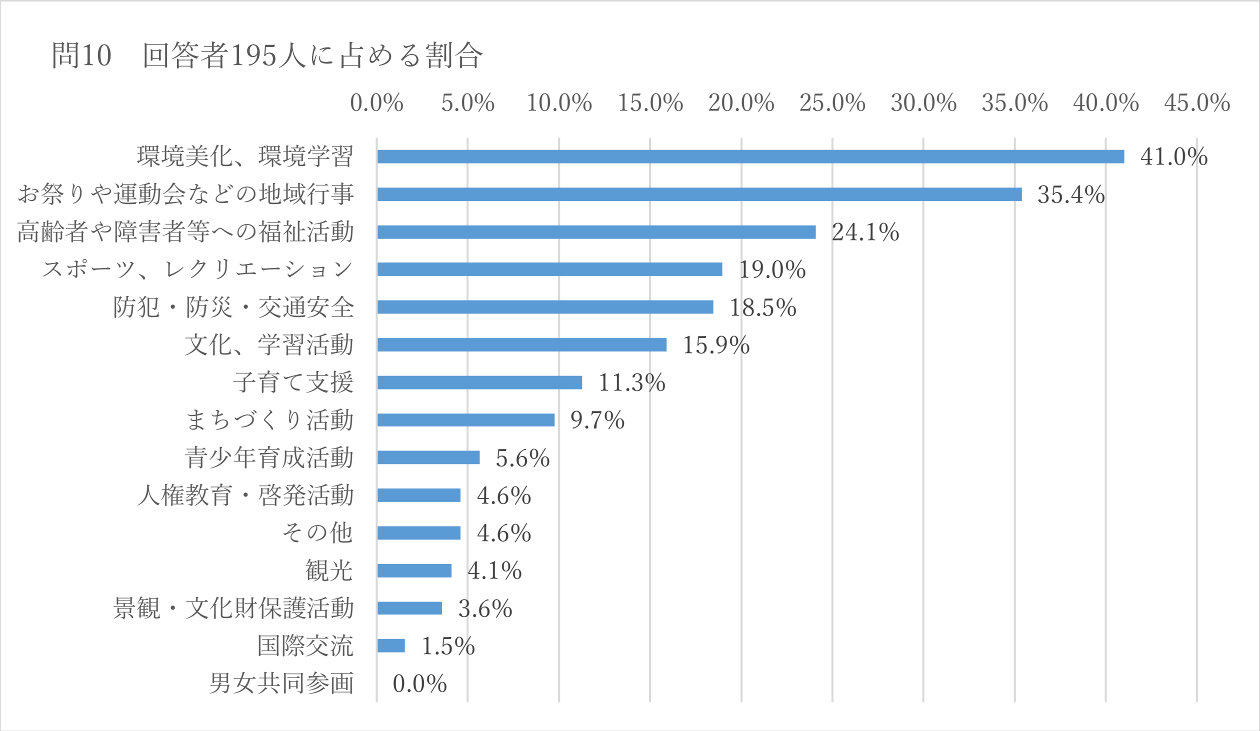
令和７年度は、活動範囲として「居住地周辺」が 33.8%で最も多く、次いで「小学校区内」が 20.5%であった。小学校区を含む周辺地域まで合わせると 64.0%を占め、身近な地域を中心に活動していることが分かる。

問 10　問７で１又は２に〇をつけた方のみお答えください。
どのような分野のボランティア活動・NPO 活動に参加されていますか。【〇はいくつでも可】

（1）回答数の割合

集計結果	R7 回答数	R7 割合
1　環境美化、環境学習	80	20.6%
2　文化、学習活動	31	8.0%
3　お祭りや運動会などの地域行事	69	17.8%
4　スポーツ、レクリエーション	37	9.5%
5　防犯・防災・交通安全	36	9.3%
6　青少年育成活動	11	2.8%
7　高齢者や障害者等への福祉活動	47	12.1%
8　まちづくり活動	19	4.9%
9　子育て支援	22	5.7%
１０　人権教育・啓発活動	9	2.3%
１１　男女共同参画	0	0.0%
１２　景観・文化財保護活動	7	1.8%
１３　国際交流	3	0.8%
１４　観光	8	2.1%
１５　その他	9	2.3%
合計	388	100.0%

（2）回答した人数の割合



【その他自由記述】
・動物愛護
・イベント補助等

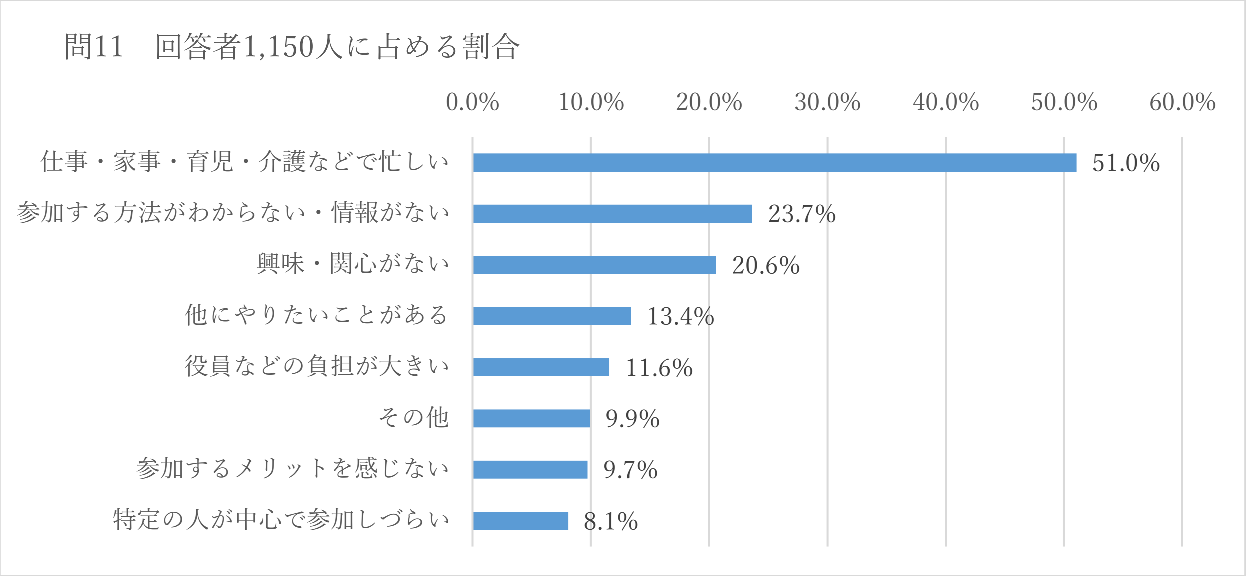
参加している活動は、「環境美化・環境学習」が 41.0%で最も多く、次いで「お祭りや運動会などの地域行事」が 35.4%、「高齢者や障害者等への福祉活動」が 24.1%となっている。身近な環境・地域活動への参加が中心である。

問 11　問７で３又は４に〇をつけた方のみお答えください。
現在ボランティア活動や NPO 活動に参加されていないのはなぜですか。【〇はいくつでも】

（1）回答数による回答割合

集計結果	R7回答数	R7割合
1　仕事・家事・育児・介護などで忙しい	587	34.5%
2　興味・関心がない	237	13.9%
3　特定の人が中心で参加しづらい	93	5.5%
4　役員などの負担が大きい	133	7.8%
5　他にやりたいことがある	154	9.0%
6　参加するメリットを感じない	112	6.6%
7　参加する方法がわからない・情報がない	272	16.0%
8　その他	114	6.7%
合計	1,702	100.0%

（2）回答人数に占める割合

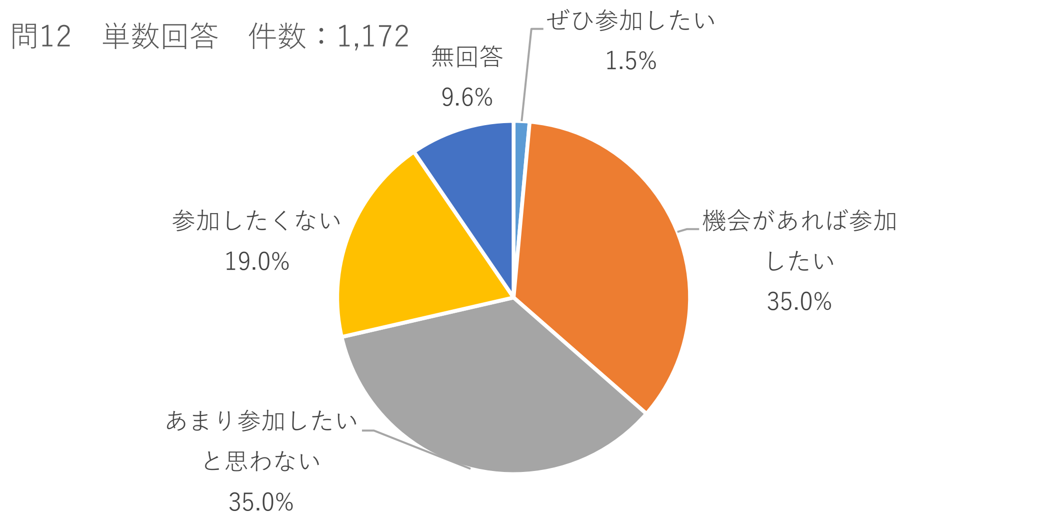


【その他自由記述】
・健康上の問題（病気、体調不良、高齢のため）
・自己満足な団体が多い
・地域活動メインで活動しているため、時間の確保がしづらい　等

参加していない理由は、「仕事・家事・育児・介護などで忙しい」が51.0%で最も多く、次いで「参加する方法がわからない・情報がない」が23.7%、「興味・関心がない」が20.6%であった。時間的制約や情報不足が主な要因となっている。

問12　問7で3又は4に〇をつけた方のみお答えください。
今後、ボランティア活動やNPO活動に参加したいと思われますか、【〇はひとつ】

集計結果	回答数	割合
1　ぜひ参加したい	17	1.5%
2　機会があれば参加したい	410	35.0%
3　あまり参加したいと思わない	410	35.0%
4　参加したくない	223	19.0%
無回答	112	9.6%
合計	1,172	100.0%



今後の参加意向は、「機会があれば参加したい」が35.0%で最も多く、「ぜひ参加したい」の1.5%と合わせると、参加に前向きな人は36.5%であった。一方、「あまり参加したいと思わない」も35.0%を占め、意向が分かれる結果となった。

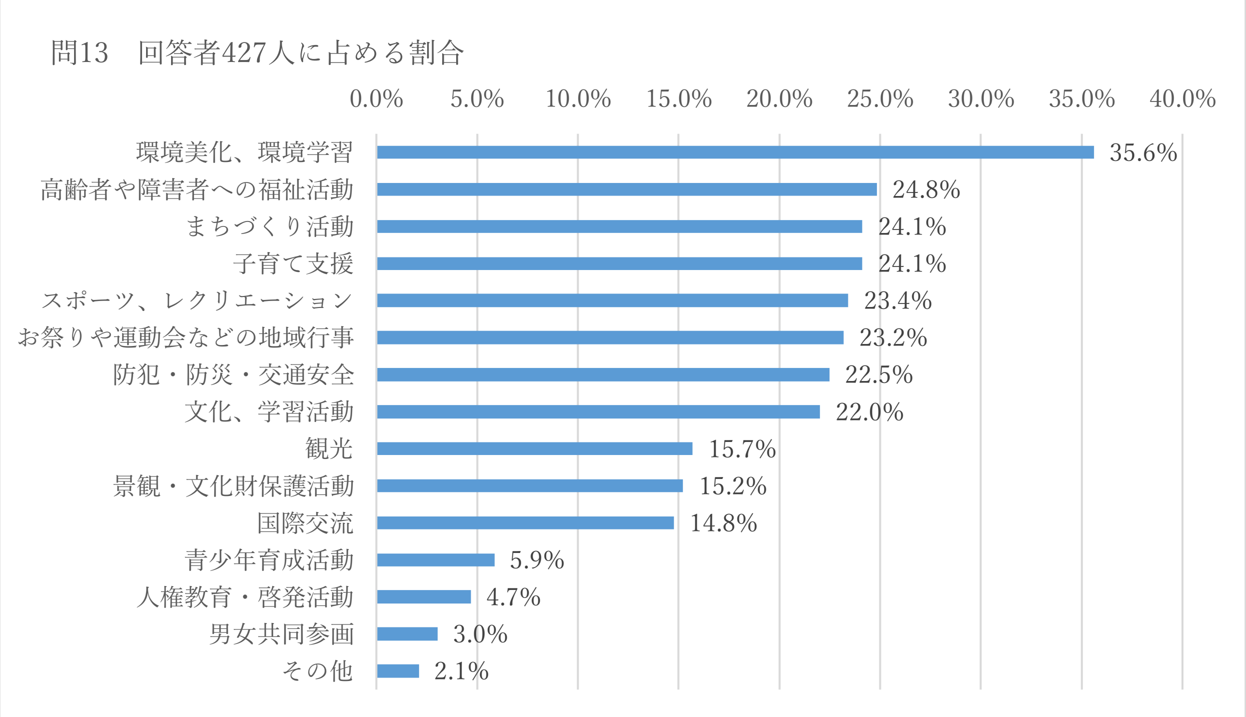
問13　問12で1又は2に〇をつけた方のみお答えください。
今後、ボランティア活動やNPO活動に参加するとすれば、どのような分野の活動に参加してみたいですか。【〇はいくつでも可】

（1）回答数による割合

集計結果	回答数	割合
1　環境美化、環境学習	152	13.6%
2　文化、学習活動	94	8.4%

3	お祭りや運動会などの地域行事	99	8.9%
4	スポーツ、レクリエーション	100	9.0%
5	防犯・防災・交通安全	96	8.6%
6	青少年育成活動	25	2.2%
7	高齢者や障害者への福祉活動	106	9.5%
8	まちづくり活動	103	9.2%
9	子育て支援	103	9.2%
１０	人権教育・啓発活動	20	1.8%
１１	男女共同参画	13	1.2%
１２	景観・文化財保護活動	65	5.8%
１３	国際交流	63	5.7%
１４	観光	67	6.0%
１５	その他	9	0.8%
合計		1,115	100.0%

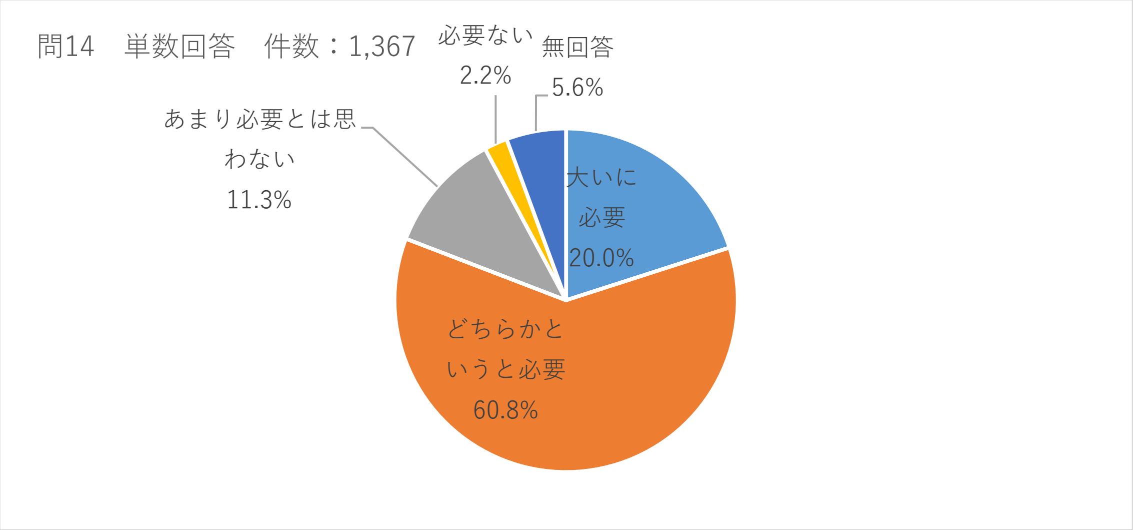
（2）回答人数に占める割合



今後参加してみたい活動分野は、「環境美化、環境学習」が 35.6％で最も多く、次いで「高齢者や障害者への福祉活動」が 24.8％、「まちづくり活動」「子育て支援」がともに 24.1％となった。また、「スポーツ、レクリエーション」23.4％、「お祭りや運動会などの地域行事」23.2％、「防犯・防災・交通安全」22.5％なども一定の関心を集めており、環境や福祉をはじめ、地域に密着した活動への参加意向が幅広く示されている。

問 14　ボランティア活動や NPO 活動について、どのような感想をお持ちですか。【〇はひとつ】

集計結果	回答数	割合
1　大いに必要	274	20.0%
2　どちらかというと必要	831	60.8%
3　あまり必要とは思わない	155	11.3%
4　必要ない	30	2.2%
無回答	77	5.6%
	1,367	



ボランティア活動や NPO 活動について、「大いに必要」と「どちらかというと必要」を合わせると 80.8%を占め、多くの人が必要性を感じている。一方、「あまり必要とは思わない」は 11.3%、「必要ない」は 2.2%にとどまり、活動の意義が広く認識されている。

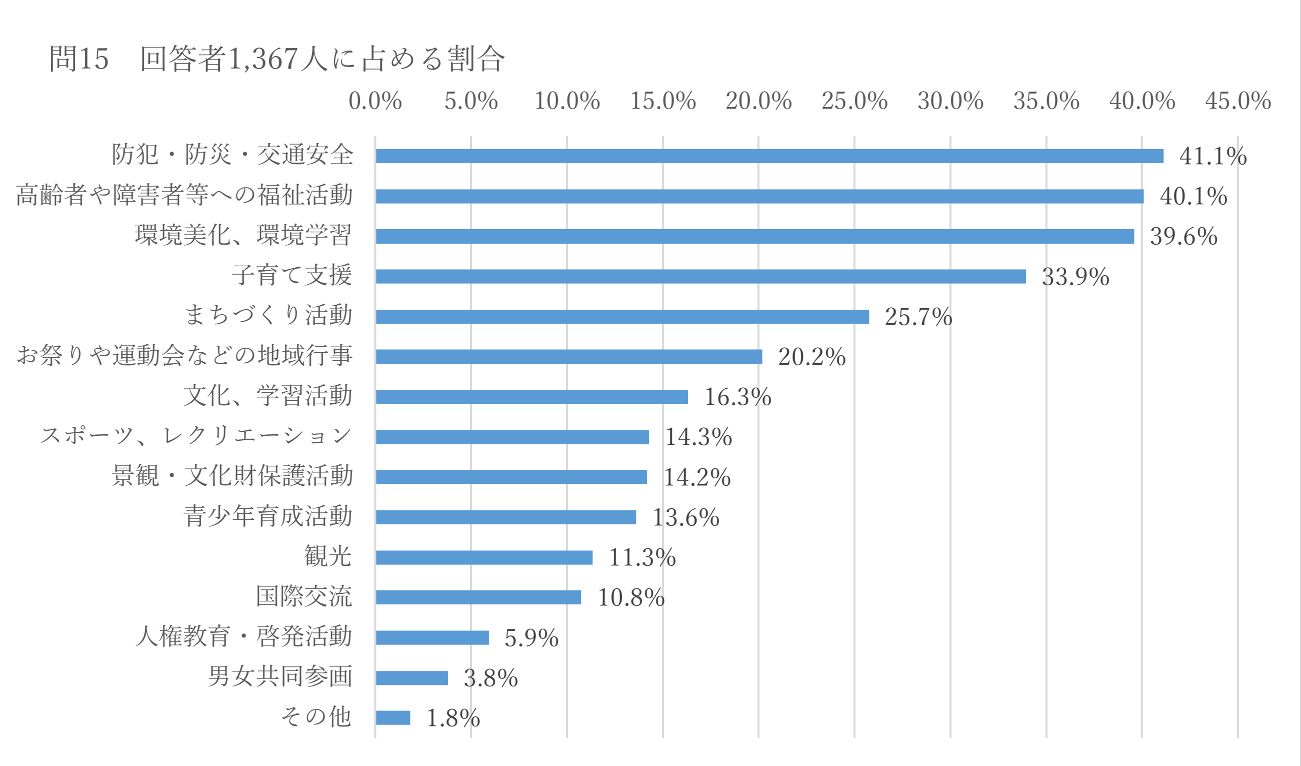
問 15　ボランティア活動や NPO 活動に期待する分野をお選びください【〇はいくつでも可】

（1）回答数による割合

集計結果	R7 回答数	R7 割合
1　環境美化、環境学習	541	13.5%
2　文化、学習活動	223	5.6%
3　お祭りや運動会などの地域行事	276	6.9%
4　スポーツ、レクリエーション	195	4.9%
5　防犯・防災・交通安全	562	14.0%
6　青少年育成活動	186	4.6%
7　高齢者や障害者等への福祉活動	548	13.7%
8　まちづくり活動	352	8.8%
9　子育て支援	464	11.6%
１０　人権教育・啓発活動	81	2.0%
１１　男女共同参画	52	1.3%

１２	景観・文化財保護活動	194	4.8%
１３	国際交流	147	3.7%
１４	観光	155	3.9%
１５	その他	25	0.6%
合計		4,001	100.0%

（２）回答人数に占める割合



【その他自由記述】

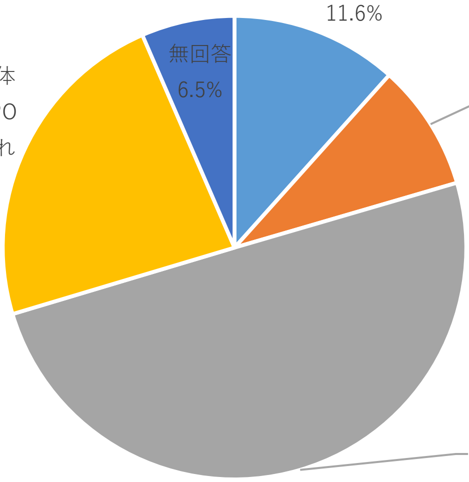
・地域の介護予防や独居老人の見守り

・保護犬、保護猫活動　他

ボランティア活動や NPO 活動に期待する分野は、「防犯・防災・交通安全」が 41.1%で最も高く、次いで「高齢者や障害者等への福祉活動」40.1%、「環境美化・環境学習」39.6%となった。また、「子育て支援」33.9%、「まちづくり活動」25.7%も一定の期待を集めている。安全・福祉・環境に加え、子育てなど、暮らしに密着した分野への期待が特に大きい。

問 16　これからのまちづくりでは、自治会などの地域団体とボランティア・NPO がどのように役割分担をすることがよいと思われますか。【〇はひとつ】

集計結果	R7 回答数	R2 割合	R7 割合
1　地域団体が主となって、ボランティア・NPO が協力する	159	9.0%	11.6%
2　ボランティア・NPO が主となって、地域団体が協力する	121	7.3%	8.9%
3　活動内容に応じ、地域団体が主になったり、ボランティア・NPO が主になったりして、相互に協力し合う	682	52.0%	49.9%
4　自治会などの地域団体とボランティア・NPO が得意分野ごとにそれぞれ活動する	316	23.7%	23.1%
5　無回答	89	8.1%	6.5%
合計	1,367	100.1%	100.0%



これからのまちづくりにおける役割分担は、令和 2 年度、令和 7 年度ともに「活動内容に応じて、地域団体とボランティア・NPO が相互に協力する」が最も多かった。令和 7 年度は 49.9%で、R2 年度の 52.0%から 2.1 ポイント減少した。一方、「地域団体が主となって協力する」は 9.0%から 11.6%へ、「ボランティア・NPO が主となって協力する」は 7.3%から 8.9%へ増加した。相互協力を基本としつつ、役割に応じた柔軟な分担を求める傾向がみられる。

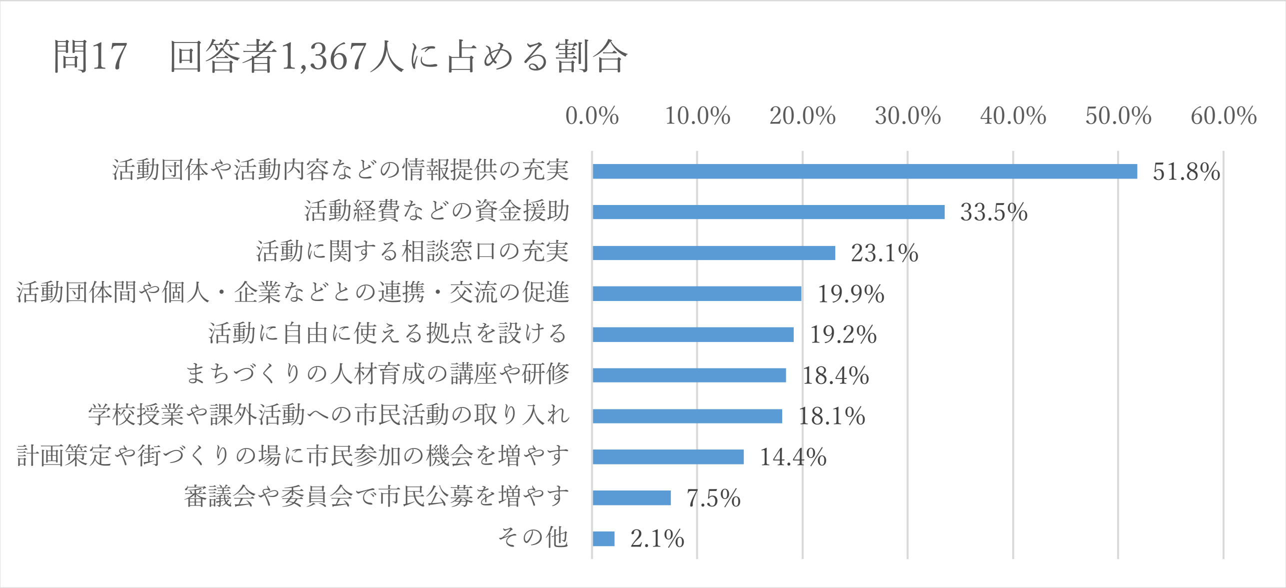
問 17　市民活動を行うにあたり、重要と思われるものをお選びください。【〇はいくつでも】

（1）回答数に占める割合

集計結果	R7 回答数	R7 割合
1　活動団体や活動内容などの情報提供の充実	708	24.9%
2　活動に関する相談窓口の充実	316	11.1%
3　審議会や委員会で市民公募を増やす	102	3.6%

4	活動に自由に使える拠点を設ける	262	9.2%
5	まちづくりの人材育成の講座や研修	252	8.9%
6	活動経費などの資金援助	458	16.1%
7	計画策定や街づくりの場に市民参加の機会を増やす	197	6.9%
8	学校授業や課外活動への市民活動の取り入れ	247	8.7%
9	活動団体間や個人・企業などとの連携・交流の促進	272	9.6%
１０	その他	29	1.0%
合計		2,814	100.0%

（2）回答人数に占める割合

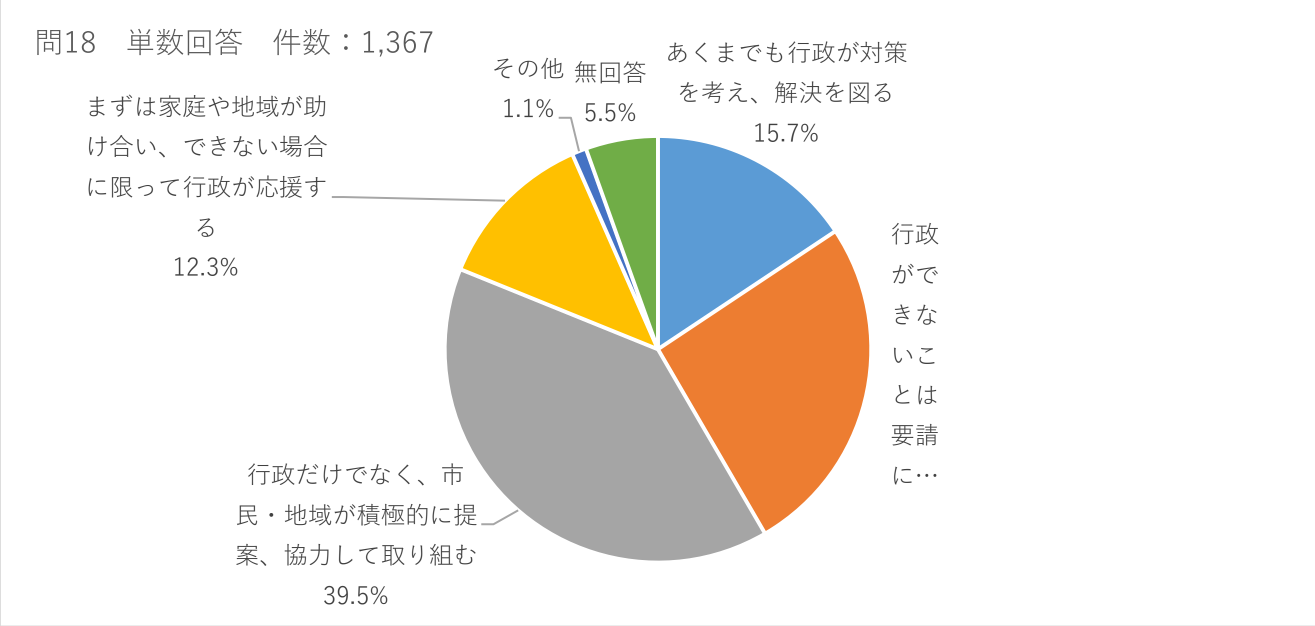


【その他自由記述】
・活動が生活の負担にならないこと
・参加／不参加の自由を保障すること。世間の目も含めて　等

市民活動を行う上で重要なものは、「活動団体や活動内容などの情報提供」が 51.8%で最も高く、次いで「活動経費などの資金援助」33.5%、「活動に関する相談窓口の充実」23.1%となった。また、団体・個人・企業等の連携、活動拠点の整備、人材育成への期待もみられ、情報提供を中心に、資金面や相談体制の充実が求められている。

問 18　地域の問題解決のために、行政と市民はどうあるべきだと思われますか【〇はひとつ】

集計結果	R7 回答数	R2 割合	R7 割合
1　あくまでも行政が対策を考え、解決を図る	214	9.4%	15.7%
2　行政ができないことは要請に応じて市民も協力していく	355	20.9%	26.0%
3　行政だけでなく、市民・地域が積極的に提案、協力して取り組む	540	51.0%	39.5%
4　まずは家庭や地域が助け合い、できない場合に限って行政が応援する	168	12.0%	12.3%
5　その他	15	－	1.1%
無回答	75	6.8%	5.5%
合計	1,367	100.1%	100.0%



【その他自由記述】

・あくまでも行政が勧めてほしい。市民には意見を聞く。協力出来る市民はする

・行政の範疇、市民の範疇と縦割りするのではなく、お互い気づいたことをやっていく

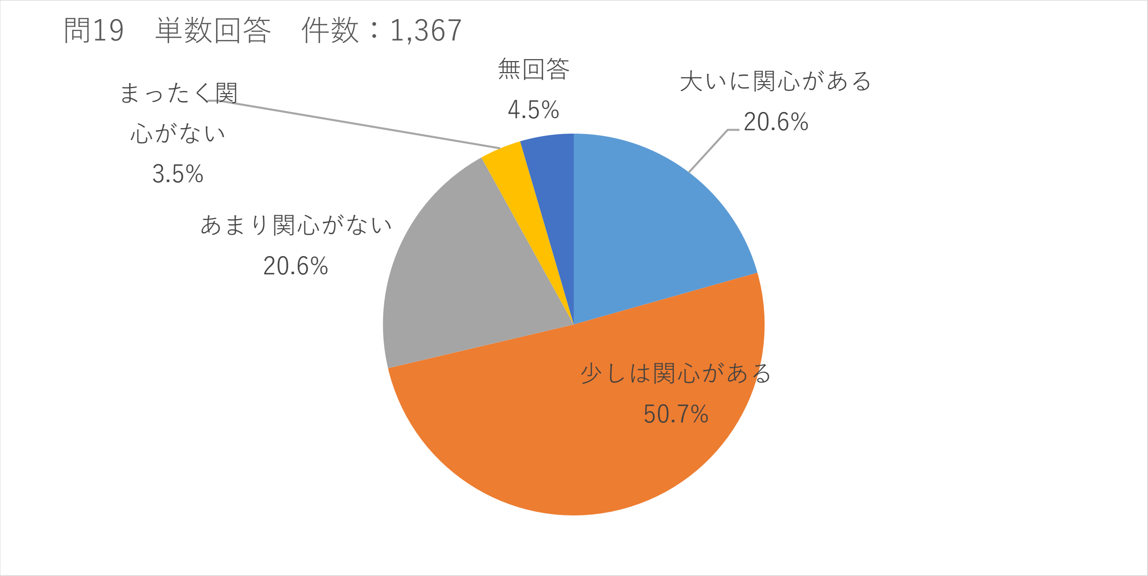
・わからない　他

令和 2 年度と令和 7 年度を比較すると、「行政だけでなく、市民・地域が積極的に提案、協力して取り組む」は 51.0%から 39.5%へ 11.5 ポイント減少した。一方、「行政が対策を考え解決する」は 6.3 ポイント、「行政ができないことに市民も協力する」は 5.1 ポイント増加した。全体として、市民・地域の主体的な取り組みより、行政の役割や行政との協力を重視する傾向が強まった。

Ⅲ　市政への関わりについて

問 19　市役所がどのような仕事をしているか、どのような計画を立てているか関心をお持ちですか。【〇はひとつ】

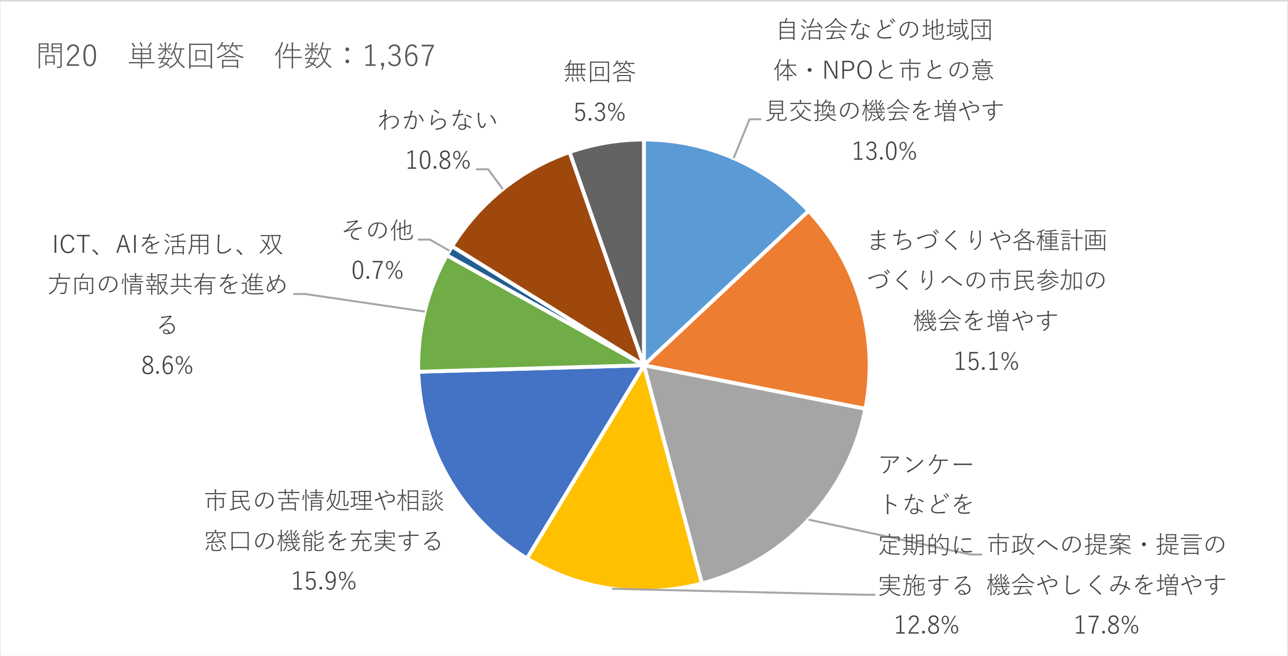
集計結果	R7 回答数	R2 割合	R7 割合
1　大いに関心がある	282	21.1%	20.6%
2　少しは関心がある	693	49.5%	50.7%
3　あまり関心がない	282	20.5%	20.6%
4　まったく関心がない	48	4.9%	3.5%
無回答	62	3.3%	4.5%
合計	1,367	99.9%	100.0%



令和 2 年度と令和 7 年度を比較すると、市役所の仕事や計画に「大いに関心がある」は 21.1%から 20.6%へ微減した。一方、「少しは関心がある」は 49.5%から 50.7%へ増加し、関心がある人の割合は 70.6%から 71.3%へわずかに上昇した。全体として、関心度はおおむね横ばいである。

問 20　市民の声を市政に反映していくためには、どのようなことが大切でしょうか【〇はひとつ】

集計結果	R7 回答数	R2 割合	R7 割合
1　自治会などの地域団体・NPO と市との意見交換の機会を増やす	178	13.8%	13.0%
2　まちづくりや各種計画づくりへの市民参加の機会を増やす	206	14.0%	15.1%
3　市政への提案・提言の機会やしくみを増やす	243	19.2%	17.8%
4　アンケートなどを定期的に実施する	175	14.6%	12.8%
5　市民の苦情処理や相談窓口の機能を充実する	217	13.3%	15.9%
6　ICT、AI を活用し、双方向の情報共有を進める	117	8.8%	8.6%
7　その他	10	1.3%	0.7%
8　わからない	148	8.7%	10.8%
無回答	73	6.3%	5.3%
合計	1,367	100.0%	100.0%



【その他自由記述】

・担当部署の職員が現場をよく訪れて、市民と会話し、要望を真剣に受け止めること
・アクション→報告までの時間を短縮する
・市民に不利な情報ほど隠さずに率先して開示する　等

令和 2 年度と令和 7 年度を比較すると、「市民の苦情処理や相談窓口の機能を充実する」が 13.3％から 15.9％へ増加し、最も高い割合となった。また、「まちづくりや各種計画づくりへの市民参加の機会を増やす」は 14.0％から 15.1％へ微増した。一方、「市政への提案・提言の機会」や「定期的なアンケート」は減少し、相談機能の充実を求める傾向が強まった。

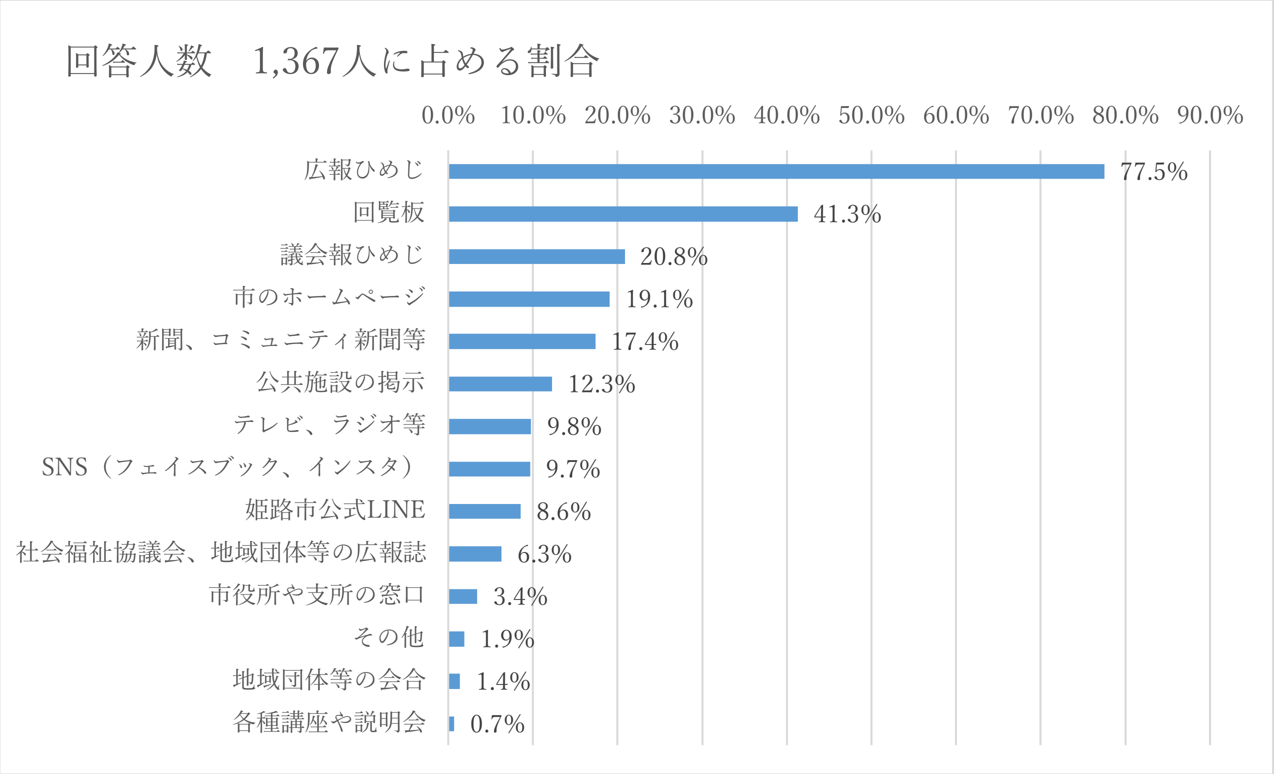
問 21　どのような方法で市政情報を入手されていますか。【〇はいくつでも可】

（1）回答数の割合

集計結果	R7 回答数	R7 割合
1　広報ひめじ	1,060	33.7%
2　議会報ひめじ	285	9.1%
3　市のホームページ	261	8.3%
4　市役所や支所の窓口	47	1.5%
5　公共施設の掲示	168	5.3%
6　回覧板	565	17.9%
7　テレビ、ラジオ等	134	4.3%
8　新聞、コミュニティ新聞等	238	7.6%
9　各種講座や説明会	10	0.3%
１０　SNS（フェイスブック、インスタグラム、X 等）	132	4.2%
１１　姫路市公式 LINE	117	3.7%
１２　社会福祉協議会、地域団体等の広報誌	86	2.7%
１３　地域団体等の会合	19	0.6%
１４　その他	26	0.8%

合計	3,148	100.0%

（2）回答人数に占める割合



【その他自由記述】
・人づてに聞く
・配布チラシ　等

市政情報の入手方法は、「広報ひめじ」が 77.5%で最も多く、次いで「回覧板」が 41.3%、「議会報ひめじ」が 20.8%、「市のホームページ」が 19.1%となった。新聞・コミュニティ紙、公共施設の掲示、テレビ・ラジオ、SNS なども利用されており、紙媒体を中心に多様な手段が活用されている。

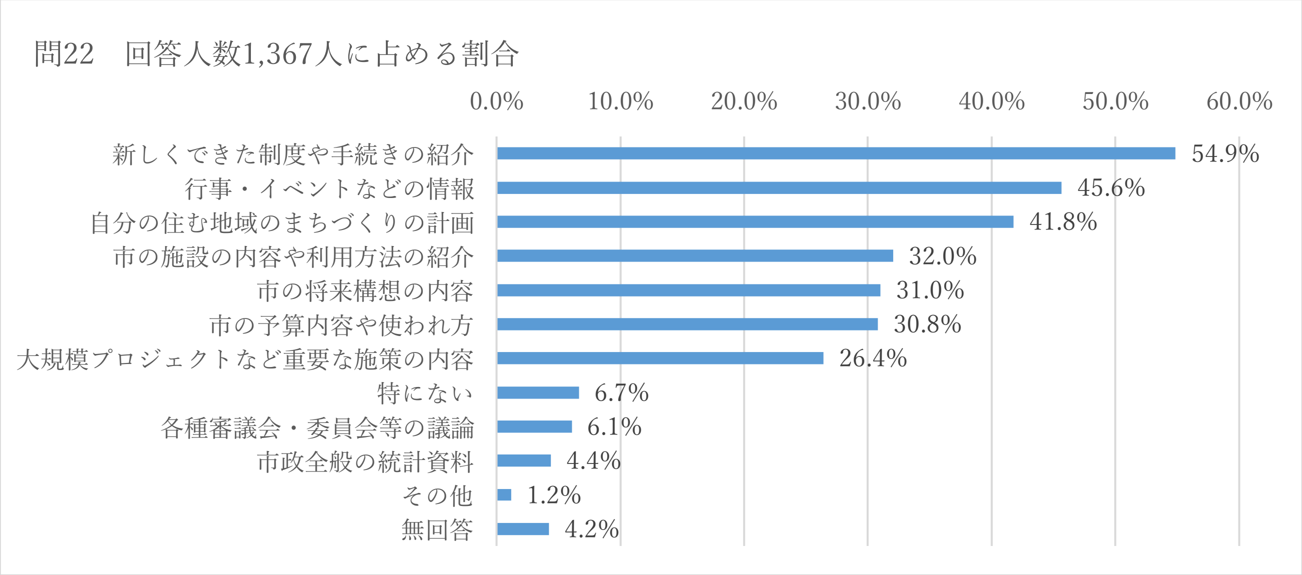
問 22　市政についてどのようなことをお知りになりたいですか。【〇はいくつでも可】

（1）回答数に占める割合

集計結果	回答数	割合
1　市の将来構想の内容	424	11.0%
2　大規模プロジェクトなど重要な施策の内容	361	9.4%
3　市の予算内容や使われ方	421	11.0%
4　各種審議会・委員会等の議論	83	2.2%
5　自分の住む地域のまちづくりの計画	571	14.9%
6　新しくできた制度や手続きの紹介	750	19.5%
7　市の施設の内容や利用方法の紹介	438	11.4%
8　行事・イベントなどの情報	624	16.3%
9　市政全般の統計資料	60	1.6%
１０　その他	16	0.4%

１１　特にない	91	2.4%
合計	3,839	100.0%

（2）回答人数に占める割合



【その他自由記述】
- 道路や土地の使い方の方向性
- インフラ整備計画
- 市民への補助金制度の詳しい内容提示　等

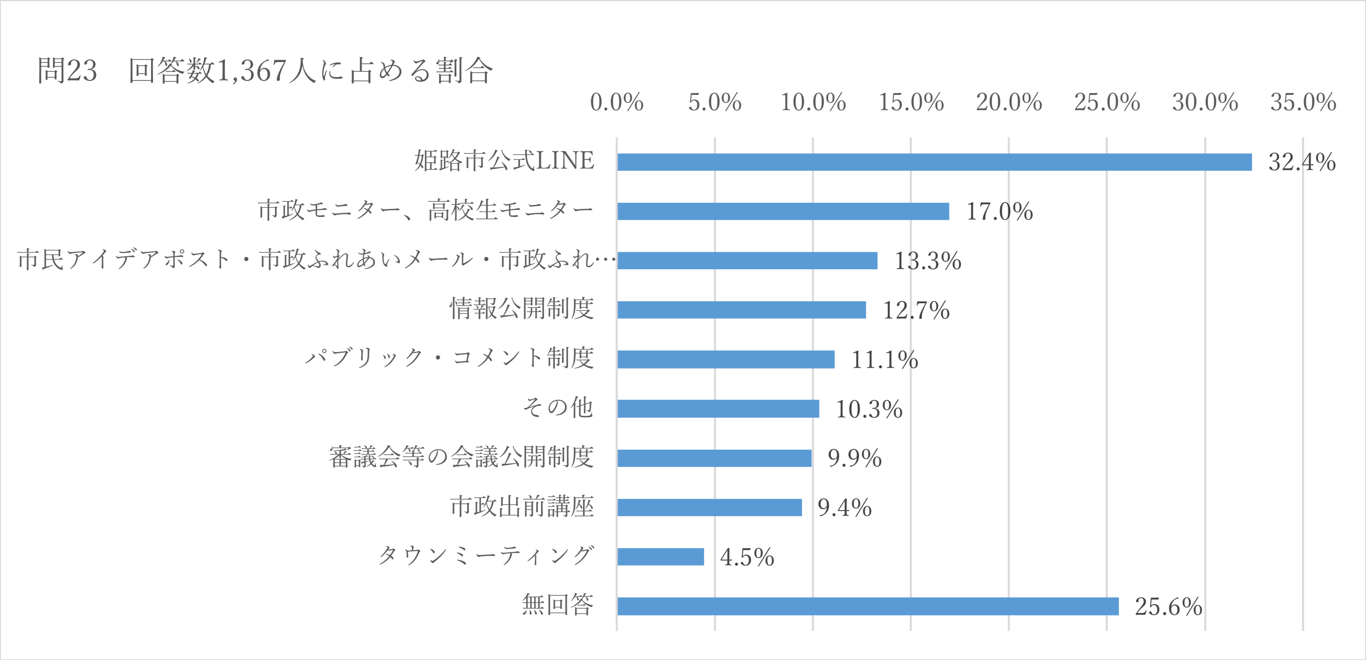
市政について知りたいことは、「新しくできた制度や手続き」が 54.9%で最も多く、次いで「行事・イベントなどの情報」が 45.6%、「自分の住む地域のまちづくり」が 41.8%となった。また、市の施設の内容や利用方法、市の将来構想、予算や使われ方、大規模プロジェクトへの関心も高く、暮らしに直結する情報が重視されている。

問 23　本市における市民参加のための取組みについて、ご存じのものをお選びください。
【〇はいくつでも可】※市政モニターの回答含む

（1）回答数に占める割合

集計結果	R7 回答数	割合
1　市民アイデアポスト・市政ふれあいメール・市政ふれあい FAX	182	11.0%
2　姫路市公式 LINE	443	26.8%
3　審議会等の会議公開制度	136	8.2%
4　情報公開制度	174	10.5%
5　市政出前講座	129	7.8%
6　パブリック・コメント制度	152	9.2%
7　タウンミーティング	61	3.7%
8　市政モニター、高校生モニター	232	14.1%
9　その他	141	8.5%
合計	1,650	100.0%

（2）回答人数に占める割合



【その他自由記述】
- 全部知らない
- 各部署が開催する講座

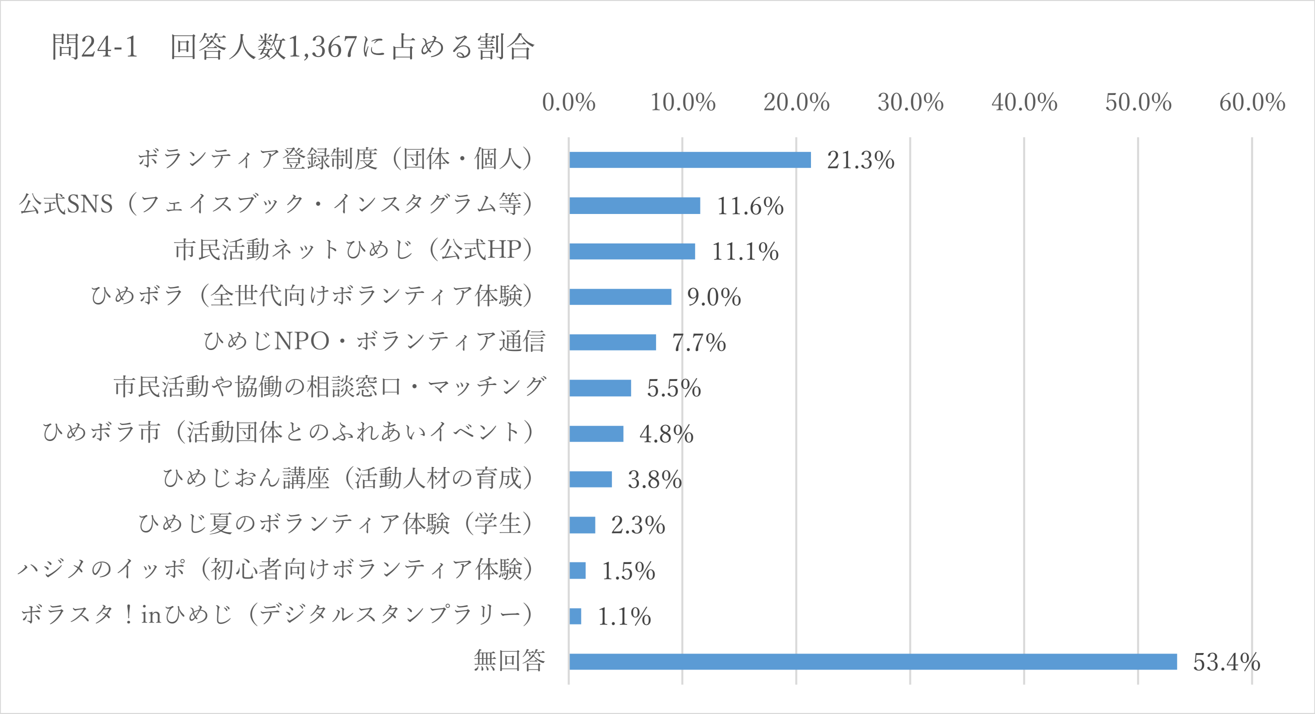
市民参加の取組については、「姫路市公式 LINE」の認知度が 32.4%で最も高く、次いで「市政モニター・高校生モニター」が 17.0%、「市民アイデアポスト等」が 13.3%、「情報公開制度」が 12.7%となりました。一方、「タウンミーティング」は 4.5%で最も低い結果でした。なお、回答者には市政モニターが含まれるため、同制度の認知度は実際より高く表れている可能性がある。

問 24　市民活動に関する取組み、施策等について、ご存じのものをお選びください。【〇はいくつでも可】
《市民活動・ボランティアサポートセンターの取組み》

（1）回答数に占める割合

集計結果	回答数	割合
1　ボランティア登録制度（団体・個人）	291	27.6%
2　市民活動や協働の相談窓口・マッチング	75	7.1%
3　ひめじ NPO・ボランティア通信	105	10.0%
4　市民活動ネットひめじ（公式 HP）	152	14.4%
5　公式 SNS（フェイスブック・インスタグラム等）	158	15.0%
6　ひめじおん講座（活動人材の育成）	52	4.9%
7　ひめじ夏のボランティア体験（学生）	32	3.0%
8　ひめボラ（全世代向けボランティア体験）	123	11.7%
9　ひめボラ市（活動団体とのふれあいイベント）	66	6.3%
１０　ハジメのイッポ（初心者向けボランティア体験）	20	1.9%
１１　ボラスタ！in ひめじ（デジタルスタンプラリー）	15	1.4%
合計	1,054	100.0%

（2）回答人数に占める割合



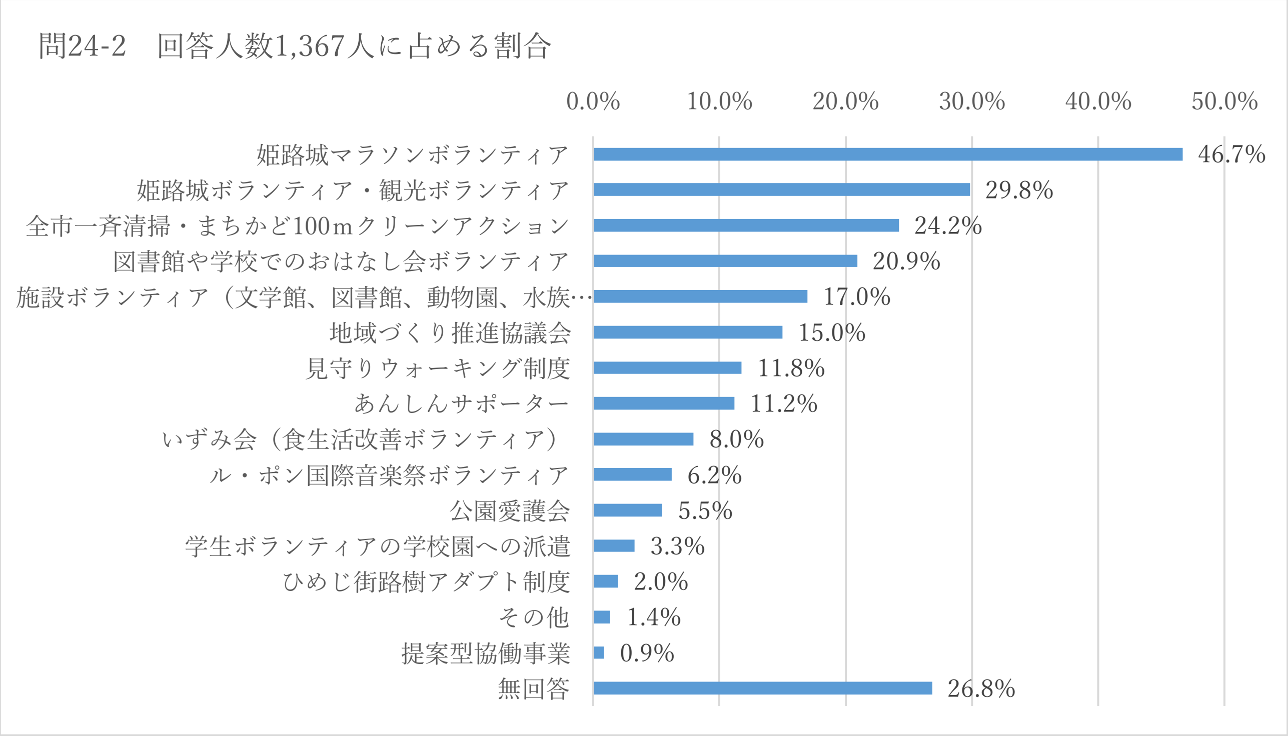
市民活動・ボランティアサポートセンターの取組では、「ボランティア登録制度（団体・個人）」が 21.3%で最も認知度が高く、次いで「公式 SNS」が 11.6%、「市民活動ネットひめじ」11.1%、「ひめボラ」が 9.0%となりました。一方、「ボラスタ！in ひめじ」が 1.1%や「ハジメのイッポ」が 1.5%など低い結果となっている。また、無回答（知っている取組がない）は 53.4%に上り、全体として認知度に課題が見られる

問 24　市民活動に関する取組み、施策等について、ご存じのものをお選びください。【〇はいくつでも可】《その他の市の取組み》

（1）回答数に占める割合

集計結果	回答数	割合
1　地域づくり推進協議会	205	7.4%
2　提案型協働事業	12	0.4%
3　学生ボランティアの学校園への派遣	45	1.6%
4　見守りウォーキング制度	161	5.8%
5　公園愛護会	75	2.7%
6　図書館や学校でのおはなし会ボランティア	286	10.3%
7　あんしんサポーター	153	5.5%
8　ひめじ街路樹アダプト制度	27	1.0%
9　全市一斉清掃・まちかど 100m クリーンアクション	331	11.9%
１０　施設ボランティア（文学館、図書館、動物園、水族館、美術館等）	232	8.3%
１１　いずみ会（食生活改善ボランティア）	109	3.9%
１２　姫路城マラソンボランティア	638	22.9%
１３　ル・ポン国際音楽祭ボランティア	85	3.1%
１４　姫路城ボランティア・観光ボランティア	408	14.6%
１５　その他	19	0.7%
合計	2,786	100.0%

（2）回答人数に占める割合

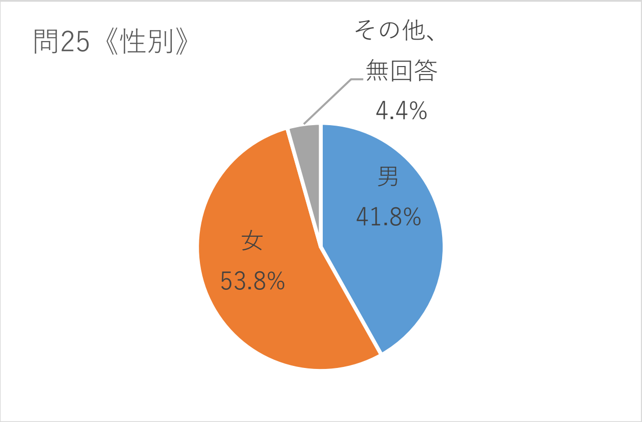


その他の市の取組では、「姫路城マラソンボランティア」が 46.7%）で最も認知度が高く、次いで「姫路城ボランティア・観光ボランティア」（29.8%）、「全市一斉清掃・まちかど 100 ㎞クリーンアクション」（24.2%）となりました。一方、「提案型協働事業」（0.9%）が最も低い結果でした。無回答は（26.8%）で、取組によって認知度に差が見られている。

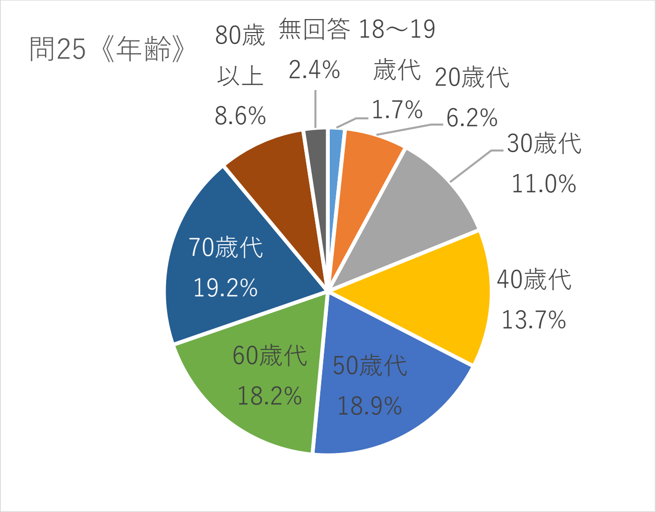
Ⅳ　回答者自身について

問 25　性別と年齢についてお答えください。【それぞれ〇はひとつ】

集計結果（性別）	回答数	割合
1　男	572	41.8%
2　女	735	53.8%
3　その他、無回答	60	4.4%
合計	1,367	100.0%

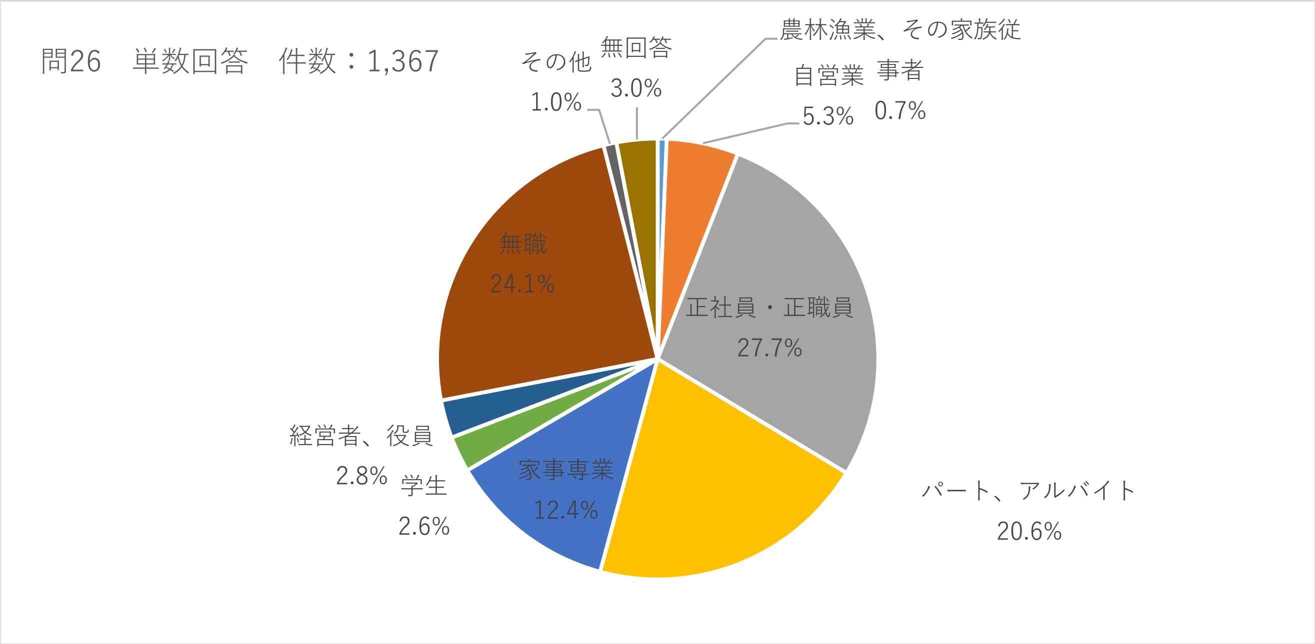


集計結果（年齢）	回答数	割合
1　18～19 歳代	23	1.7%
2　20 歳代	85	6.2%
3　30 歳代	150	11.0%
4　40 歳代	187	13.7%
5　50 歳代	259	18.9%
6　60 歳代	249	18.2%
7　70 歳代	263	19.2%
8　80 歳以上	118	8.6%
無回答	33	2.4%
合計	1,367	100.0%



問 26　主な職業についてお答えください。【〇はひとつ】

集計結果	回答数	割合
1　農林漁業、その家族従事者	9	0.7%
2　自営業（商工サービス、自由業等）	72	5.3%
3　正社員・正職員	379	27.7%
4　パート、アルバイト、契約、派遣、嘱託社員	281	20.6%
5　家事専業	169	12.4%
6　学生	36	2.6%
7　経営者、役員	38	2.8%
8　無職	329	24.1%
9　その他	13	1.0%
無回答	41	3.0%
合計	1,367	100.0%

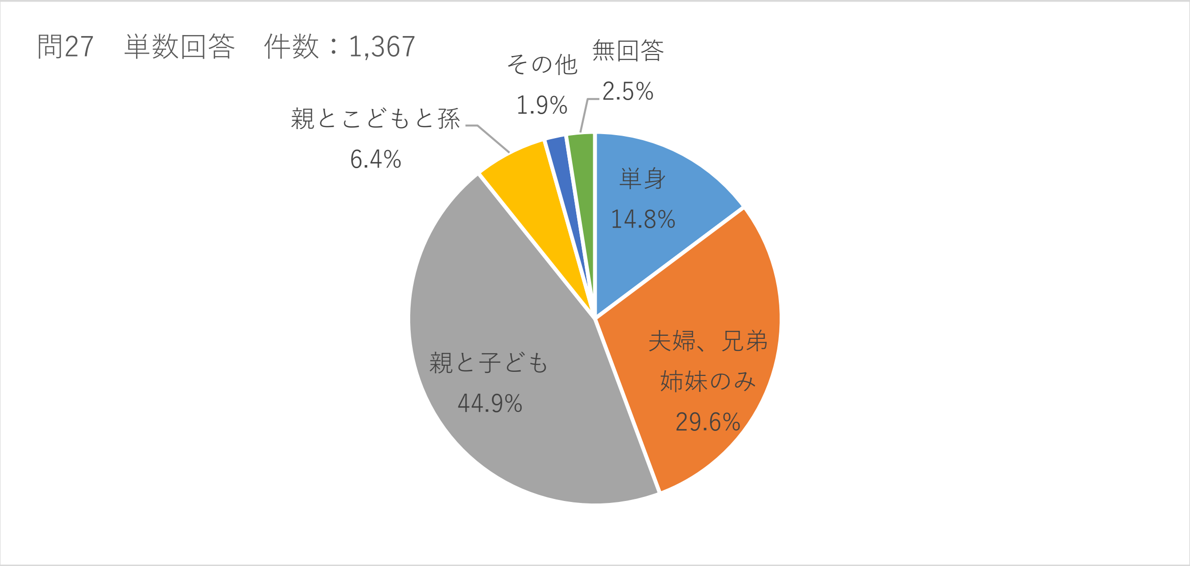


【その他自由記述】
・サービス業
・作業所　他

問 27　ご家族の構成についてお答えください。【○はひとつ】

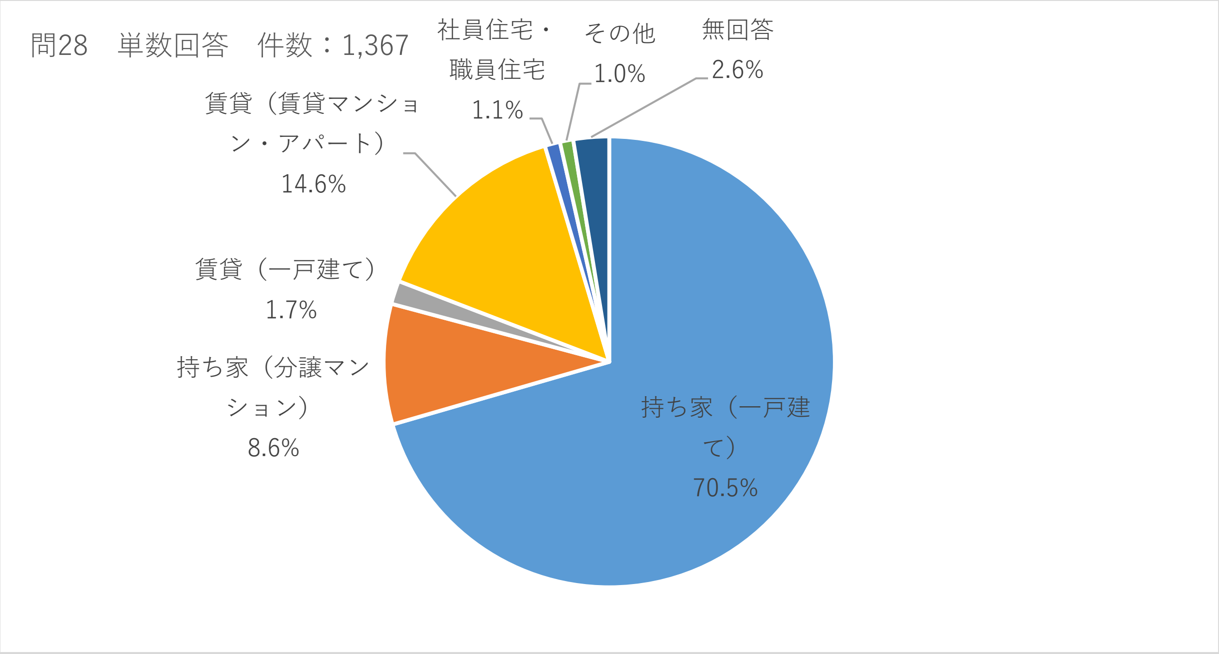
集計結果	回答数	割合
1　単身（一人暮らし）	202	14.8%
2　夫婦、兄弟姉妹のみ（１世代）	404	29.6%
3　親と子ども（２世代）	614	44.9%
4　親とこどもと孫など３世代以上の家族	87	6.4%
5　その他	26	1.9%
無回答	34	2.5%
合計	1,367	100.0%

【その他自由記述】
・夫婦と子供
・夫婦と母親



問 28　お住まいの住宅形態について、お答えください。【〇はひとつ】

集計結果	回答数	割合
1　持ち家（一戸建て）	964	70.5%
2　持ち家（分譲マンション等）	118	8.6%
3　賃貸（一戸建て）	23	1.7%
4　賃貸（賃貸マンション・アパート）	199	14.6%
5　社員住宅・職員住宅	15	1.1%
6　その他	13	1.0%
無回答	35	2.6%
合計	1,367	100.0%

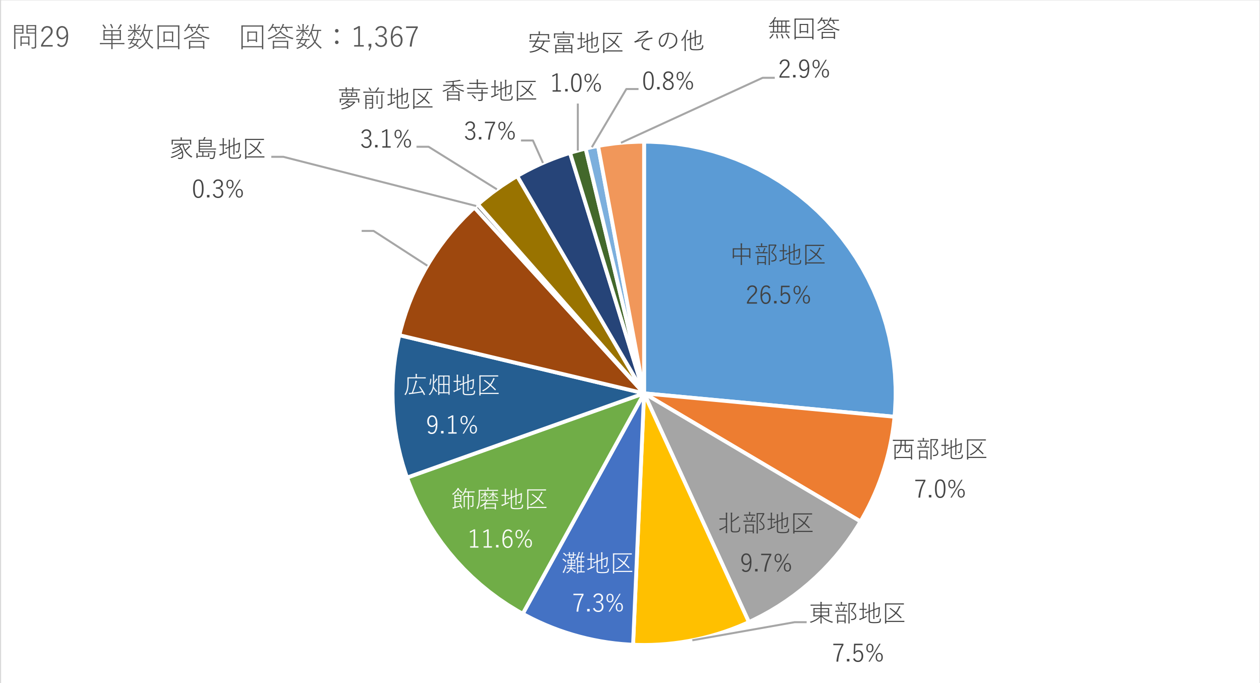


【その他自由記述】
・市営住宅、県営住宅　等

問 29　お住まいの地区（小学校区）あてはまる番号に〇印をつけてください。

集計結果	回答数	割合
1　中部地区	362	26.5%
2　西部地区	96	7.0%
3　北部地区	132	9.7%
4　東部地区	103	7.5%
5　灘地区	100	7.3%
6　飾磨地区	158	11.6%
7　広畑地区	125	9.1%
8　網干地区	130	9.5%
9　家島地区	4	0.3%
１０　夢前地区	42	3.1%

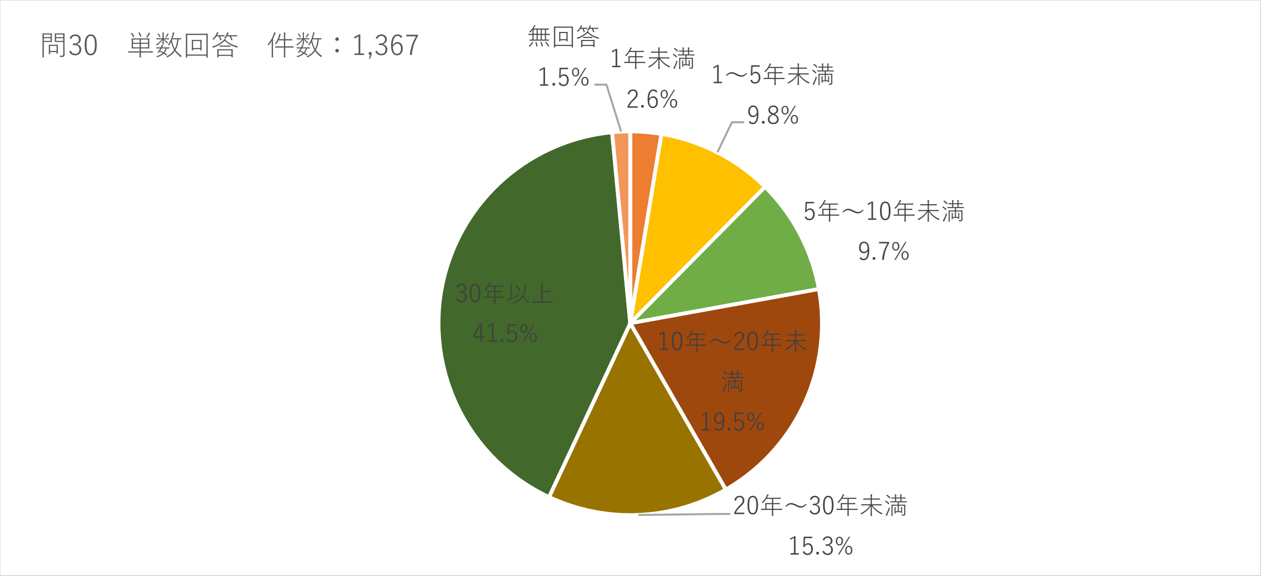
１１　香寺地区	50	3.7%
１２　安富地区	14	1.0%
１３　地区がわからない	11	0.8%
無回答	40	2.9%
合計	1,367	100.0%



【その他自由記述】
・三左衛門堀東の町
・日出町
・安田　等

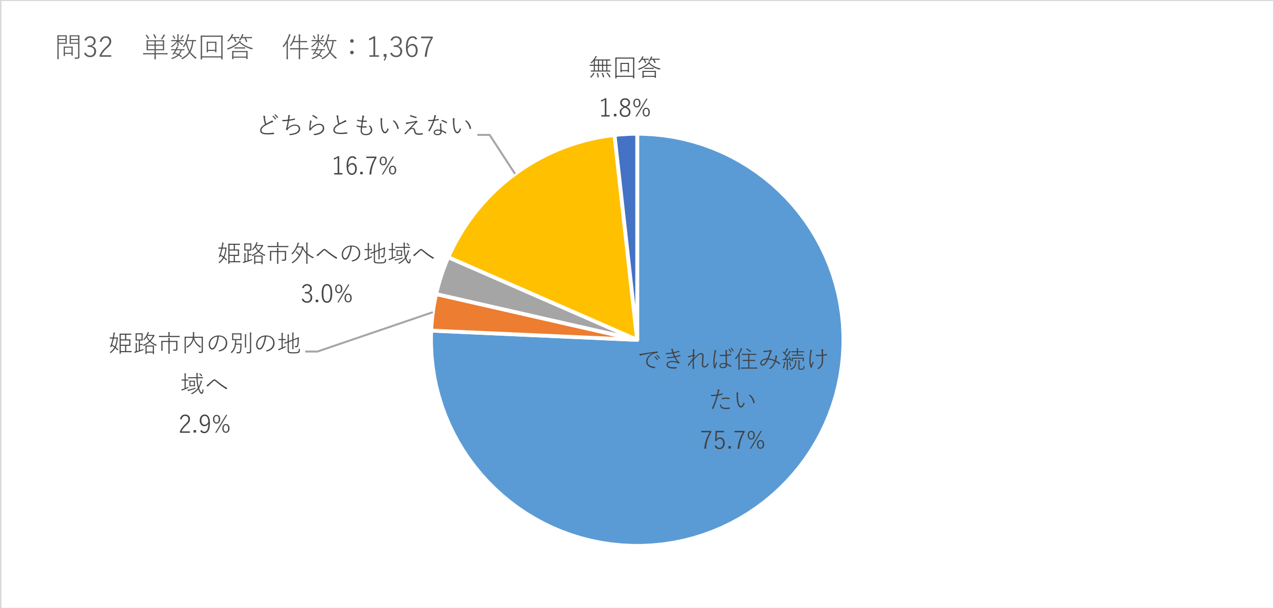
問 30　現住所には通算して何年ぐらいお住まいですか。【○はひとつ】

集計結果	回答数	割合
1　1 年未満	37	2.6%
2　1～5 年未満	137	9.8%
3　5 年～10 年未満	153	9.7%
4　10 年～20 年未満	268	19.5%
5　20 年～30 年未満	206	15.3%
6　30 年以上	548	41.5%
無回答	18	1.5%
	1,367	100.0%



問 31　これからも、現住所に住み続けたいとお考えですか。【○はひとつ】

集計結果	R7 回答数	R2 割合	R7 割合
1　できれば住み続けたい	1,035	76.7%	75.7%
2　姫路市内の別の地域へ	39	3.5%	2.9%
3　姫路市外への地域へ	41	3.5%	3.0%
4　どちらともいえない	228	14.2%	16.7%
無回答	24	2.2%	1.8%
合計	1,367	100.1%	



【2　姫路市内の別の地域へ】
・夢前町、安富町：空気がきれいだから
・南条、北条：公共の交通機関に近い、古いしがらみが少ない印象がある、利便性が高そう
・どこかへ：食肉加工会社があってくさい。人は平気みたいだけど私は洗濯物も外に干せない

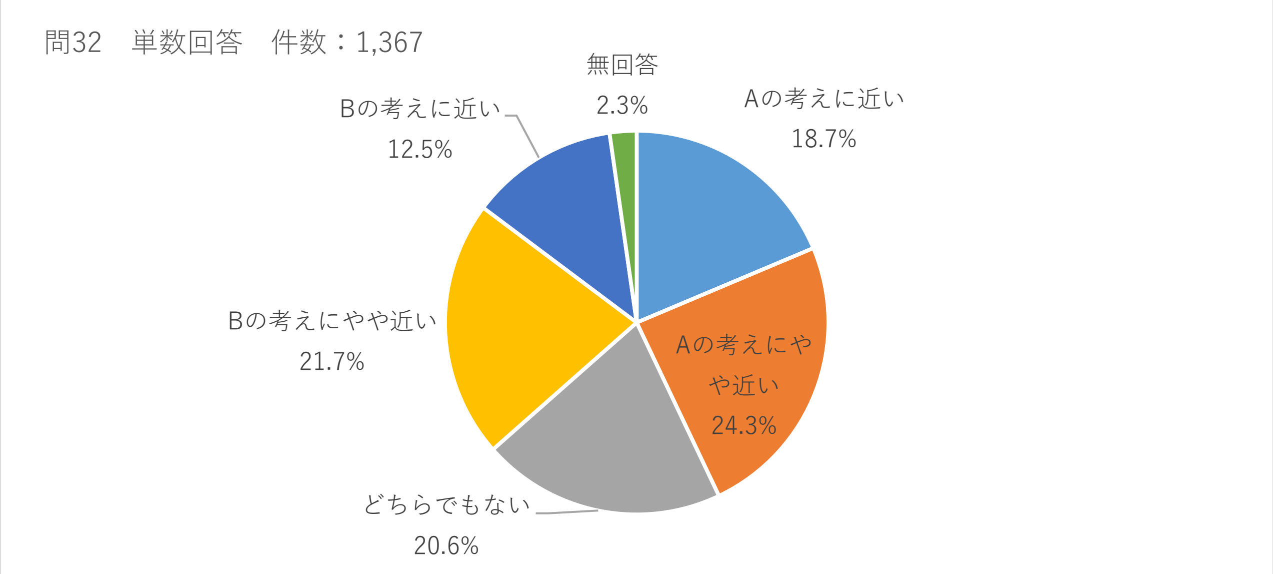
【3　姫路市外の地域へ】

・加西市：子育て支援が姫路市よりも手厚い
・北海道：どこに行くにも渋滞があり、移動に時間が読めない為
・神戸、大阪、東京：田舎にしては都会だし新幹線も止まるからいいが、流行り物やイベントは神戸、大阪などが強いと感じている

「できれば住み続けたい」が 75.7%を占め、現住所への定住意向が高いことが分かる。一方、姫路市内の別地域への転居希望は 2.9%、市外への転居希望は 3.0%にとどまった。「どちらともいえない」は 16.7%で、令和 2 年度と比べて 2.5 ポイント増加している。定住意向はやや低下したものの、全体としては現住所に住み続けたい人が大多数を占めている。

問 32　次の A）と B）のうち、あなたの考えに近いものを教えてください【〇はひとつ】
A）多くの人とコミュニケーションをとる機会を持ちたい。
B）なるべく人とのコミュニケーションをとらずに静かに暮らしたい

集計結果	R7 回答数	R2 割合	R7 割合
1　A の考えに近い	255	21.0%	18.7%
2　A の考えにやや近い	332	26.0%	24.3%
3　どちらでもない	281	21.8%	20.6%
4　B の考えにやや近い	297	19.1%	21.7%
5　B の考えに近い	171	8.2%	12.5%
無回答	31	4.0%	2.3%
合計	1,367	100.1%	100.0%



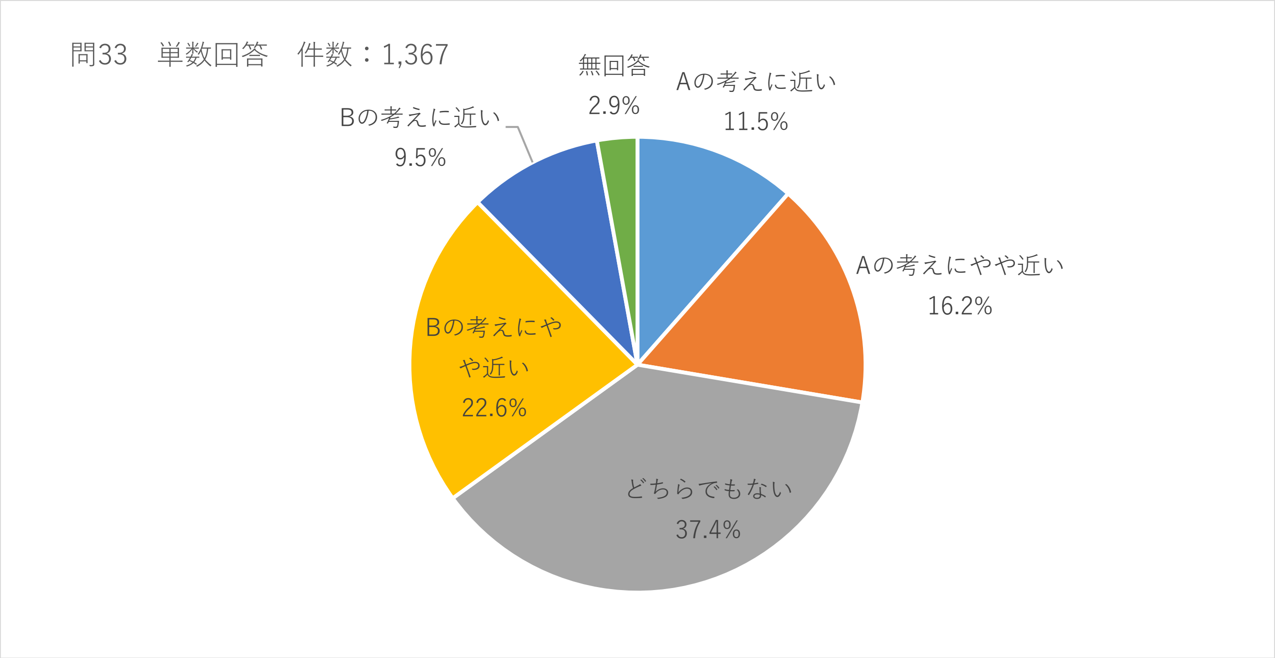
A（多くの人とコミュニケーションをとる機会を持ちたい）を選択した人が計 43.0%で最も多く、対人交流を求める傾向がみられた。一方、B（なるべく人とのコミュニケーションをとらずに静かに暮らしたい」は計 34.2%、「どちらでもない」は 20.6%であった。令和 2 年度と比べると、A は 47.0%から減し、B は 27.3%から増加しており、交流を控えたい人の割合が高まっている。

問 33　次の A）と B のうち、あなたの考えに近いものを教えてください。【〇はひとつ】

A）自分とは違う世代の人と交流したい。

B）できるだけ同世代の人と交流したい。

集計結果	R7 回答数	R2 割合	R7 割合
1　A の考えに近い	157	10.5%	11.5%
2　A の考えにやや近い	221	19.1%	16.2%
3　どちらでもない	511	34.8%	37.4%
4　B の考えにやや近い	309	21.8%	22.6%
5　B の考えに近い	130	8.9%	9.5%
無回答	39	4.9%	2.9%
合計	1,367	100.0%	100.0%



「どちらでもない」を選択した人が 37.4%で最も多く、世代間交流・同世代交流のいずれにも明確な好みを示さない人が中心となった。A（異世代との交流）に近い回答は計 27.7%、B（同世代との交流）は計 32.1%で、B がやや上回っている。令和 2 年度と比べると、A は減少し、B と中立は増加した。

■　**姫路市において、市民活動を盛んにしていくうえで、ご意見・ご提言がありましたらお聞かせください。**
※生成 AI（GaiXer）を活用し、意見を要約しました。

（1）　アンケート全体について

本アンケートでは、地域コミュニティが抱える深刻な課題が浮き彫りになりました。自治会活動では高齢化による担い手不足、共働き世帯への土日祝日前提の活動負担、強制参加や不公平感への不満が顕著であり、市道の草刈りなど自治会が担う業務への市支援や、多様なライフスタイルに合わせた活動の見直しが強く求められています。

市民生活の利便性向上を求める声も多く、公共交通の不便さ、山間部の買い物困難、福祉サービスの不足、子育て支援の拡充が課題として挙げられました。住民税や固定資産税の高さ、税金の使途の透明化、中心

部偏重ではない公平な施策、そして世代間の優遇不均衡への改善要望が目立ちます。
市民活動を活性化するためには、SNS など現代的な情報発信手段の活用、活動内容の分かりやすい説明、無料参加や柔軟な時間設定による参加ハードルの低減が不可欠です。異世代交流イベントや趣味を通じた活動の機会創出により、市民が自発的に関わりたくなるような魅力的な「きっかけ」作りが期待されています。市民は、これらの課題解決と、開かれた市政運営を通じて、誰もが住みやすい持続可能なまちづくりを強く望んでいます。

（2） 自治会への意見について

自治会活動は、高齢化による役員不足や、共働き世帯への土日祝日中心の強制的な活動参加が大きな負担となっています。自治会費の高さや使途の不透明性、不公平感も指摘され、時代に合わせた活動の見直しや、地域外住民・若者層への配慮が不可欠です。市に対し、自治会の不祥事への介入・指導や、活動のあり方に関する具体的な支援が求められており、このままでは地域コミュニティの維持が困難になるという危機感が示されています。

（3） 自治会以外の地域団体について

自治会以外の地域団体も、高齢化による担い手不足や活動維持の困難に直面し、子供会や婦人会、地域イベントの縮小・停止が地域の一体感を失わせています。個人主義の増加や活動への負担感が参加意欲の低下を招く一方、スポーツや福祉活動、災害時の互助といった「ゆるやかな繋がり」や、高齢者の経験を活用する場、子育て世代が参加しやすいイベントへの期待も高まっています。多様な価値観に合わせた団体活動の見直しと、情報発信強化による参加促進が課題です。

（4） 市民活動について

市民活動に関する意見は多岐にわたり、主に情報発信の強化（SNS 活用）が強く求められています。参加へのハードルが高いと感じる市民が多く、無料化や柔軟な時間設定、気軽に体験できる機会を増やすことで、参加しやすさを向上させる工夫が必要です。また、高齢者の経験活用や多世代交流イベントの創出、義務的ではない楽しさやメリットを感じられる活動内容の充実が望まれます。既存の自治会活動との兼ね合いで負担を感じる声も多く、時代に合わせた仕組みの見直しが市民活動全体の活性化につながると期待されています。

（5） 主な意見【抜粋】

（自治会等地域団体に関する意見）

- 親に自治会の事を聞くと 2/3 以上が 65 歳で自治会の役員になる人がいないので大変困っているとのことです。
- 夫婦ともにサービス業の為、土日、祝日、休み前提の活動には疑問を抱いています。一斉清掃なども参加しないと罰金があり、その為に会社を休むなど困っています。自治会活動も参加できないし役員を引き受けられない事情がある事も受け入れてほしい（行事がすべて土日祝日の為）親が役員できなければ 子供会も入れないので、子供たちは子供会に入れませんでした。
- 今の時代に合った仕組みへの見直しが必要だと思います。特に自治会は共働き世帯の増加や女性の社会進出で、参加が難しくなってきていると思います。

（市民活動に関する意見）

- インスタなどの SNS で情報が知りたいです。もっと手軽に情報を仕入れたい。

・ 市民活動、ボランティア、と聞くと、自分に出来るのかな？と、ちょっと身構えてしまう人も多いかもしれません。気負わず軽い気持ちでも参加できる内容、雰囲気だと参加しやすいかなと思います。
・ 無料で参加できるようにすれば、参加してみようかと思えるようになりやすい。活動内容をわかりやすく説明して欲しい。
・ 市民活動というと、自治会など義務的で憂鬱なものしかないイメージです。市民活動することで得られるメリットがないと思っており、避けたいのが現状です。なので、市民活動で得られる良い点を発信していくべきと思います。
・ 意欲はあってもきっかけが無い人がいると思います。自治会経由？で簡単なことから始めてはどうでしょうか。
・ 高校生や大学生が参加できそうな活動が増えたらいいなと思います。 情報が少ない、もしくは目にする機会が少ないように感じます。